

2019
平成31年度

入学者選抜要項



平成30年7月
岩手大学

本要項は、本学における入学者選抜の基本的事項について記載したものです。
試験等の実施期日、出願手続、出願書類等を含む「学生募集要項」は、別途公表します
ので、詳細については「学生募集要項」でご確認ください。
なお、公表時期等については、57ページを参照してください。

目 次

I	岩手大学入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）	1
1	岩手大学入学者受入の方針	
2	学部別入学者受入の方針	
II	募集人員	18
III	入学者選抜方法等	19
1	一般入試	
2	アドミッション・オフィス入試（AO入試）、推薦入試、私費外国人留学生入試	
3	入学者選抜の実施教科・科目等	
(1)	人文社会学部	
(2)	教育学部	
(3)	理学部	
(4)	農学部	
IV	一般入試	29
1	個別学力検査実施方式	
2	学内併願	
3	出願資格	
4	出願期間及び合格発表日	
5	第2志望について	
6	実技検査等	
7	試験場	
V	人文社会学部アドミッション・オフィス入試（AO入試）	34
VI	理学部アドミッション・オフィス入試（AO入試）	35
1	AO入試Ⅰ	
2	AO入試Ⅱ	
VII	推薦入試	38
1	推薦入試Ⅰ	
2	推薦入試Ⅱ	
3	被災者特別選抜	
VIII	私費外国人留学生入試	50
IX	その他	52
1	予期せぬ事態が発生した場合の選抜方法について	
2	検定料免除	
3	個別の出願資格審査	
4	入試過去問題活用宣言について	
5	障がい等を有する入学志願者との事前相談	
6	入試情報の提供	
(1)	平成30年度一般入試合格者の最高点・最低点・平均点	
(2)	受験者に対する試験成績等の開示	
7	学生募集要項の公表	
8	学生募集要項等の請求方法及び請求先	
9	建物配置及び案内図	

I 岩手大学入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

1 岩手大学入学者受入の方針

岩手大学は、地域における知の府としての役割を果たす教育研究の場として、国際的な視野を持ち、幅広い教養と深い専門性を備えて持続可能な共生社会の形成に寄与する人材の育成に取り組んでいます。

そのために、高等学校等における幅広い学びから育成される基礎的な知識と思考力に加えて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

- 真理の探究や課題の解決に向けて主体的に取り組む姿勢
- 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップ
- 自然や人を思いやる心と倫理性
- 豊かな発想とチャレンジ精神、そしてコミュニケーション能力

2 学部別入学者受入の方針

人文社会学部

1 学部概要

人文社会学部は、グローバル化の下で著しく変化する現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と、人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会及び国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目指しています。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《学部共通部分》 ※各課程分は後述

(1) 知識・理解

人間・文化・社会・環境に関する基礎的知識を有し、物事を論理的に考えることができる人

(2) 思考・判断

多様な考え方、異質なものの見方を理解しようとする柔軟な姿勢を持ち、物事を多角的に捉えることができる人

(3) 関心・意欲

人間・文化・社会・環境のあり方とそれらをめぐる諸問題について強い探究心と広い観点から学ぶ意欲を持つ人

(4) 技能・表現

自分の考えを適切に表現し、それを積極的に発信できる人

(5) 主体性・協働性

地域社会・国際社会の諸問題に実践的に取り組み、周囲の人々と協働しながら問題の解決を図ろうとする人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《学部共通》

- ・国語—読解力及び自分の考えを表現できる作文力
- ・英語—基本的な読解力・リスニング力・会話力・作文力
- ・地歴・公民—日本及び世界の地理・歴史・社会制度・社会思想などに関する基礎的知識と社会事象に対する関心
- ・数学、理科—論理的思考力、及び自然科学の基本的知識
- ・高校生活全般—他人と積極的に関わることのできるコミュニケーション力

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

4 入学者選抜の基本方針 《学部共通》

(1) 一般入試（前期日程）

大学入試センター試験では「知識・理解」「思考・判断」を評価し、個別試験では「知識・理解」「思考・判断」「技能・表現」を評価します。

(2) 一般入試（後期日程）

大学入試センター試験では「知識・理解」「思考・判断」を評価し、個別試験では「思考・判断」「技能・表現」を評価します。

(3) アドミッション・オフィス入試

第1次選考の書類審査・面接では、高等学校時代までの校内・校外の諸活動、その他の社会活動から見える「主体性・協働性」を、課題文の要約及び出願理由書・実績記入書の内容から「思考・判断」「技能・表現」「関心・意欲」を評価します。第2次選考については、集団討論で「思考・判断」「技能・表現」「主体性・協働性」を、面接では「技能・表現」「関心・意欲」を評価するとともに、出願理由書・調査書・実績記入書で「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「主体性・協働性」を確認します。

(4) 推薦入試

人間文化課程（小論文選択）と地域政策課程については、小論文で「思考・判断」「技能・表現」を、面接では「技能・表現」「関心・意欲」を評価するとともに、出願理由書・調査書で「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「主体性・協働性」を確認します。

人間文化課程（スポーツ選択）については、小論文で「思考・判断」「技能・表現」を、面接では運動歴調査書の記載内容も含めて「技能・表現」「関心・意欲」を評価するとともに、出願理由書・調査書で「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「主体性・協働性」を確認します。

人間文化課程（美術選択・書道選択）については、実技検査で当該分野の基本的な「技能・表現」を評価し、面接では「技能・表現」「関心・意欲」を評価するとともに、出願理由書・調査書で「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「主体性・協働性」を確認します。

(5) 私費外国人留学生入試

日本留学試験では日本語に関する基礎的能力を含めて「知識・理解」「思考・判断」を、小論文では「思考・判断」「技能・表現」を評価します。そして、面接では出願理由書の内容の確認も併せて「思考・判断」「技能・表現」「関心・意欲」を評価します。

【人間文化課程】

1 課程概要 ※学部分は前述

人間文化課程は、多様な固有文化を育み、歴史的に継承されてきた地域のあり方と、そこに暮らす人間の行動を多角的に学修し、グローバル化を踏まえた地域づくりと住民の心身両面の健やかな生活に貢献できる人材、及び地域の来歴を踏まえ、文化を世界に向けて発信できる人材を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《課程分》 ※学部分は前述

(1) 知識・理解

人間・言語・文化・芸術・スポーツについて学ぶための基礎的知識を有し、物事を論理的に考えることができる人

(2) 思考・判断

多様な特性をもつ人間・言語・文化・芸術・スポーツをめぐる諸現象を多角的に捉えることができる人

(3) 関心・意欲

人間・言語・文化・芸術・スポーツをめぐる諸問題について世界及び地域双方の広い観点から学ぶことに高い関心を持つ人

(4) 技能・表現

人間・言語・文化・芸術・スポーツについて学ぶための語学力と基礎的な技能を身につけているとともに、自分の考えを適切に表現し、それを積極的に発信できる人

(5) 主体性・協働性

人間・言語・文化・芸術・スポーツに関する学修を実践に活かし、周囲の人々と協働しながら地域社会・国際社会の諸問題を解決しようとする強い熱意を持つ人

【地域政策課程】

1 課程概要 ※学部分は前述

地域政策課程は、東日本大震災の復興から、未来のモデルとなる持続可能な社会づくりへの道筋を見据え、地域創生・地域マネジメントへの課題に、法学・経済学・環境学それぞれの分野の学修を軸としながら、総合的視点から取り組むことのできる人材を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《課程分》 ※学部分は前述

(1) 知識・理解

社会・環境について学ぶための基礎的知識を有し、物事を論理的に考えることができる人

(2) 思考・判断

複雑に絡み合う社会・環境をめぐる諸現象を多角的に捉えることができる人

(3) 関心・意欲

社会・環境をめぐる諸問題について、法・経済・環境の広い観点から学ぶことに高い関心を持つ人

(4) 技能・表現

社会・環境に関する自分の考えをまとめ、積極的に発信しようとする人

(5) 主体性・協働性

法学・経済学・環境学に関する学修を実践に活かし、周囲の人々と協働して地域社会・国際社会の諸問題を解決しようとする強い熱意を持つ人

＜別表＞検査方法と評価要素

(1) 入学者選抜方法ごとの選抜内容

入学者選抜方法	該当選抜区分	選抜内容
小論文	一般（後期）	社会・文化・学問・教養などに関する事柄をテーマとして、「思考・判断」「技能・表現」に関する基礎的な能力を判定する。
小論文	推薦（人間文化課程 小論文選択・スポーツ選択、 地域政策課程）	提示した問題・課題を通して、「思考・判断」「技能・表現」に関する基礎的な能力を判定する。
小論文	私費外国人留学生	提示した問題・課題を通して、日本語に関する「技能・表現」、及び「思考・判断」に関する基礎的な能力を判定する。
集団討論	アドミッション・オフィス 2次	人間文化課程では、人間と文化に関する資料（映像・文献等）に基づいて、自分の意見や感想をまとめた後、ディスカッションを行う。地域政策課程では、提示された社会科学・環境科学に関するテーマについてディスカッションを行い、その後にディスカッションに関するまとめのレポートを作成する。両課程とも、これらを通じて「思考・判断」「技能・表現」「主体性・協働性」について判定する。

書類審査・面接	アドミッション・オフィス 1次	書類審査と、面接において課題文の要約の発表、出願理由書・実績記入書についての質疑、及び1分間の自己PRを行い、「思考・判断」「技能・表現」「関心・意欲」「主体性・協働性」について判定する。
面接	アドミッション・オフィス 2次	人間文化課程では、出願理由書及び実績記入書の内容に関する質疑を行う。地域政策課程はそのほかに集団討論に関するレポート発表も行う。両課程とも、これらを通じて「技能・表現」「関心・意欲」について判定する。
面接	推薦	推薦書・出願理由書・調査書・運動歴調査書（人間文化課程スポーツ選択のみ）に関する質疑を行うことによって「技能・表現」「関心・意欲」について判定する。
面接	私費外国人留学生	出願理由書に関する質疑を行うことによって、「技能・表現」「関心・意欲」について判定する。
実技検査	推薦（人間文化課程 美術選択・書道選択）	美術選択はデッサン、書道選択は臨書の実技検査を行うことによって、当該分野の「技能・表現」に関する基礎的な能力を判定する。
運動歴調査書	推薦（人間文化課程 スポーツ選択）	高等学校までの校内・校外での運動歴を記入する。これによってスポーツの「技能・表現」に関する基本的な能力を判定する。
出願理由書	アドミッション・オフィス 推薦 私費外国人留学生	本学部を志望する理由を、これまでの勉学や様々な活動を通じて育まれた問題意識、本学部の教育内容、大学卒業後の希望進路などを踏まえて記入する。「思考・判断」「関心・意欲」を判定する際の1つの資料にする。
調査書	アドミッション・オフィス 推薦	高等学校での科目的履修状況に加えて、教科外活動の状況やボランティア活動・プロジェクト活動など校外での活動、各種の資格・免許取得なども評価対象とする。「知識・理解」「主体性・協働性」を判定する際の1つの資料とする。

（2）入学者選抜方法ごとの重点評価項目

入学者選抜方法	該当選抜区分	知識・理解	思考・判断	技能・表現	関心・意欲	主体性・協働性
(センター試験)	一般（前期） 一般（後期）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
個別学力検査 <教科>	一般（前期） 一般（後期） 推薦（人間文化課程 小論文選択・スポーツ選択、 地域政策課程） 私費外国人留学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
書類審査・面接	アドミッション・オフィス 1次	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
面接	アドミッション・オフィス 2次 推薦 私費外国人留学生		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
集団討論	アドミッション・オフィス 2次	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
実技検査	推薦（人間文化課程 美術選択・書道選択）		<input type="radio"/>			
運動歴調査書	推薦（人間文化課程 スポーツ選択）		<input type="radio"/>			
出願理由書	アドミッション・オフィス 推薦 私費外国人留学生		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
調査書	アドミッション・オフィス 推薦	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
日本留学試験	私費外国人留学生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			

※一般入試（前期日程）、一般入試（後期日程）においては調査書は総合判定時の参考とする。

教育学部（学校教育教員養成課程）

1 学部概要 ※各コース部分は後述

教育学部は、教員養成の専門学部として、教育に関する理論的・実践的な力量、教育内容とその背景をなす諸学問の理解及び豊かな人間性・社会性を備え、地域の要請に応えつつ、教員としての意欲と高い使命感をもって教育に取り組むことができる教員の養成を目的としています。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《学部共通》

（1）知識・理解・技能

- ・ 幅広い教養教育と教員になるための専門教育に主体的に取り組む基礎となる知識・技能を有する人

（2）思考・判断・表現

- ・ 知識を活用し論理的に思考・判断する資質・能力を有する人
- ・ 多面的な考え方や協調性を尊重するとともに、自分の考えを表現できるコミュニケーション能力を有する人

（3）関心・意欲・態度

- ・ 学校教育に関わる種々の問題に関心を持ち、教員として社会に貢献する強い意欲を有する人
- ・ 豊かな人間性と子どもに対する深い愛情を有する人
- ・ 生涯学び続ける態度を有する人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《学部共通部分》 ※各コースの特徴は後述

教育学部では、できるだけ幅広い教科・科目について基礎的な内容を修得していることが望まれます。さらに得意な分野等については、より学習を深め、科目全般についての学習内容を理解し確かな知識・技能を修得していることが望されます。また学力の基本となる読解力と文章構成力を身につけていることが望されます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

4 入学者選抜の基本方針 《学部共通》

（1）一般入試（前期日程）

大学入試センター試験で「知識・理解」「思考・判断」を評価します。小学校教育コース・中学校教育コース（音楽・美術・保健体育以外）・理数教育コース・特別支援教育コースの個別試験ではこれらに加え「表現」を、中学校教育コース（音楽・美術・保健体育）の個別試験ではこれらに加え「表現」「技能」「関心・意欲・態度」を評価します。

（2）一般入試（後期日程）

大学入試センター試験で「知識・理解」「思考・判断」を評価します。小学校教育コース・特別支援教育コースの個別試験ではこれらに加え「表現」「関心・意欲・態度」を評価します。

（3）推薦入試 I

小学校教育コース・中学校教育コース（英語）・理数教育コース・特別支援教育コースの小論文では「知識・理解」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を評価します。中学校教育コース（美術）の実技検査では「技能」を中心に、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を評価します。小学校教育コース・中学校教育コース（美術）・理数教育コース・特別支援教育コースの面接では「関心・意欲・態度」を中心に、中学校教育コース（英語）の面接では「関心・意欲・態度」「技能（英語の運用能力）」を中心にそれぞれ評価します。出願理由書は「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を中心に、調査書は「知識・理解」を中心に、面接

で判定を行う際の基礎資料として活用します。

(4) 私費外国人留学生入試

日本留学試験では日本語に関する基礎的能力を含めて「知識・理解」「技能」を評価します。面接では出願理由書の内容の確認も併せて「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を、中学校教育コース（音楽・美術）ではこれらに加え「技能」を評価します。

【小学校教育コース】

1 コース概要 ※学部分は前述

小学校教育コースは、人間の成長過程で重要な位置を占める小学校段階の教育を担う教員の養成を目的としています。本コースでは、小学校教育に関わる教科指導と生活指導に関する専門的知識・技能および実践的指導力に加え、小学校教育への使命感と豊かな人間性を持った教員を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《コース分》 ※学部共通項を参照

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》 ※学部分は前述

小学校教育コースにおいては、幅広い教科についての基礎学力が必要とされ、広い学びと深い学びを両立できる意欲と学力を有していることが望されます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

【中学校教育コース】

1 コース概要 ※学部分は前述

中学校教育コースは、特定の教科に関する専門性を備え、生徒の発達に応じて適切に指導できる中学校教員の養成を目的としています。本コースでは、教科に関する専門的な学力とともに、生活指導に関する専門的知識・技能および実践的指導力を有し、中学校教育への使命感と豊かな人間性を持った教員を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《コース分》 ※学部共通項を参照

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》 ※学部分は前述

中学校教育コースにおいては、できるだけ幅広い教科についての基礎学力とともに特に専門とする教科についての深い関心と学力を有していることが望されます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

【理数教育コース】

1 コース概要 ※学部分は前述

理数教育コースは、子どもたちに理科・数学に関する確かな学力や学ぶことの大切さを伝えるとともに、子どもたちの科学的な思考力や創造性を育成する理数教育の担い手として、小学校における理科・算数の教科リーダーとなる教員、また中学校における高い専門性を備えた理科・数学の教員を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《コース分》 ※学部共通項を参照

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》 ※学部分は前述

理数教育コースにおいては、できるだけ幅広い教科についての基礎学力とともに特に自然科学・数学分野における旺盛な探究心と学力を有していることが望されます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

【特別支援教育コース】

1 コース概要 ※学部分は前述

特別支援教育コースは、特別支援学校、特別支援学級、小学校・中学校等の通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする子どもに対して、主体的取り組みを支援する観点から教育的ニーズを把握し、適確に指導・支援できる教員を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《コース分》 ※学部共通項を参照

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》 ※学部分は前述

特別支援教育コースにおいては、特別支援教育の基礎として前述の「小学校教育コース」または「中学校教育コース」に準じた能力を有していることが望されます。加えて、特別支援教育への熱意、多様な子ども一人ひとりに寄り添うことができる感性を有していることが望されます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

＜別表＞検査方法と評価要素のマトリックス表

（1）入学者選抜方法ごとの選抜内容

入学者選抜方法	該当入試区分	選抜内容
小論文	一般（後期）	学校教育に関連する基礎的な「知識・理解」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。
小論文	推薦 I	学校教育に関連する基礎的な「知識・理解」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。
面接	一般（前期）・美術	学校教育に関連する基礎的な「知識・理解」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。
面接	推薦 I	学校教育に関連する基礎的な「知識・理解」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。中学校教育コース（英語）ではこれらに加えて「技能（英語の運用能力）」を評価する。
面接	私費外国人留学生	学校教育に関連する基礎的な「知識・理解」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。中学校教育コース（音楽・美術）ではこれらに加えて「技能（実技能力）」を評価する。
実技検査	一般（前期） 音楽・美術・保健体育	教職を目指す者としてふさわしい「技能」を中心に、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。
実技検査	推薦 I・美術	教職を目指す者としてふさわしい「技能」を中心に、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。

運動歴調査書	一般（前期）・保健体育	競技成績等の運動歴を通じて保健体育科教師としてふさわしい技能（身体能力）を保有しているかを評価する。
出願理由書	推薦 I 私費外国人留学生	「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を中心に、面接で判定を行う際の基礎資料として活用する。
調査書	推薦 I	「知識・理解」を中心に、面接で判定を行う際の基礎資料として活用する。

（2）入学者選抜方法ごとの重点評価項目

入学者選抜方法	該当入試区分	知識・理解	技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度
(センター試験)	一般（前期） 一般（後期）	○ ○		○ ○ 但し、表現を除く	
個別学力検査 (教科)	一般（前期）	○		○	
小論文	一般（後期） 推薦 I	○ ○		○ ○	○ ○
面接	一般（前期）・美術 推薦 I 私費外国人留学生	○ ○	○(1) ○(2)	○ ○ ○	○ ○ ○
実技検査	一般（前期）・音楽 美術 保健体育 推薦 I・美術		○ ○ ○ ○		
運動歴調査書	一般（前期）・保健体育		○		
出願理由書	推薦 I 私費外国人留学生			○	○
調査書	推薦 I	○			
日本留学試験	私費外国人留学生	○	○		

(1) 中学校教育コース（英語）では「技能（英語の運用能力）」を評価する。

(2) 中学校教育コース（音楽・美術）では「技能（実技能力）」を評価する。

※一般入試（前期日程）、一般入試（後期日程）においては調査書は総合判定時の参考とする。

理工学部

1 学部概要 ※各学科・コース・プログラム分は後述

理工学部は、理工学分野又は工学分野の基礎学力と科学技術分野に関する課題を解決するためには必要な専門的能力を有し、グローバルな視点に立ちながら地域社会づくりやイノベーション創出に貢献できる技術者と研究者、次世代の優秀な理系人材を育成する教育者の養成を行います。また、持続可能な社会の発展のために、理工学分野の基礎から応用までの広範な研究を推進します。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《学部共通部分》

※各学科・コース・プログラム分は後述

（1）関心・意欲

- ・ 科学技術の発展に必要とされる理工学や工学分野に強い関心と学ぶ意欲があり、更には地域や社会における課題への理解力と地域貢献への意欲を持ちつつ明確な目標を持って行動できる人

（2）知識・技能

- ・ 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を持つとともに、理工学および工学分野の学修に関する科目に関する基礎的な知識をもち、その知識を展開する技能を持つ人

（3）思考力・判断力

- ・ 理工学分野又は工学分野における課題を発見・探求し、解決したいという積極性を持ち、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人

（4）表現力・コミュニケーション能力

- ・ 周囲とコミュニケーションが円滑にとれ、必要な相手に伝えたいことを表現できる人

（5）主体性・創造性・協働性

- ・ 多様な経験をもとに協働して学び、主体的に創造性豊かな発想ができる人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 ※コース・プログラム毎に後述

4 入学者選抜の基本方針 ※コース・プログラム毎に後述

【化学・生命理工学科】

1 学科概要 ※学部分は前述、各コース分は後述

化学・生命理工学科では、化学及び生命に関連する科学技術分野の理工学的な諸課題を解決するための理学的な基礎学力と工学的な応用学力を統合した総合学力を有し、国際的視点に立ちながら地域社会づくりに貢献できる研究者や技術者、教育者の育成を行います。また、持続可能な社会の発展のために、化学及び生命理工学分野の基礎から応用までの広範な研究を推進します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学科共通分》

※学部分は前述、各コース分は後述

- ・ 化学及び生命理工学の学修に必要な基礎学力
- ・ 化学・生命分野における豊かな発想力と論理的な思考力
- ・ 化学・生命分野における課題を探究し、解決したいという積極性

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 ※コース毎に後述

4 入学者選抜の基本方針 ※コース毎に後述

※ 各コース・プログラム単位の内容については、下記のURLを参照してください。

<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/general/policy.html>

<化学コース>

<生命コース>

【物理・材料理工学科】

1 学科概要 ※学部分は前述、各コース分は後述

物理・材料理工学科では、数理科学、物理科学、物質科学、材料工学の各分野を担える広範な専門基礎学力と、関連する諸課題を探究し解決できる能力を有し、地域社会と国際社会の持続発展に貢献できる人間性豊かな技術者、研究者、教育者の育成を行います。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学科共通分》

※学部分は前述、各コース分は後述

- ・ 高校教育の中で、数学、物理、化学、英語などを十分に学習し、本学科の学修に必要な基礎学力
- ・ 数理科学、物理科学、物質科学、材料工学に強い関心を持ち、環境との調和に留意しつつ、これらの発展に大きな貢献をしたいという意欲
- ・ 強い勉学意欲と、新しい課題に挑戦する積極性

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 ※コース毎に後述

4 入学者選抜の基本方針 ※コース毎に後述

※ 各コース・プログラム単位の内容については、下記のURLを参照してください。

<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/general/policy.html>

<数理・物理コース>

<マテリアルコース>

【システム創成工学科】

1 学科概要 ※学部分は前述、各コース分は後述

システム創成工学科では、電気電子通信、知能・メディア情報、機械科学、社会基盤・環境の各科学技術分野に関する広範な基礎学力と工学分野における課題を探求し、解決するために必要な専門的能力を有し、地域社会と国際社会の持続的発展に貢献できる技術者や研究者の育成を行います。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学科共通分》

※学部分は前述、各コース分は後述

- ・ システム創成工学を学ぶに相応しい数学、物理、化学、英語などの基礎学力
- ・ 電気電子通信、知能・メディア情報、機械科学、社会基盤・環境の各分野に強い関心を持ち、豊かな発想力と論理的な思考力を有し、自ら積極的に勉学しようとする意欲
- ・ システム創成工学分野における課題を積極的に解決しようとする探究心

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 ※コース毎に後述

4 入学者選抜の基本方針 ※コース毎に後述

※ 各コース・プログラム単位の内容については、下記のURLを参照してください。

<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/general/policy.html>

<電気電子通信コース>

<知能・メディア情報コース>

<機械科学コース>

<社会基盤・環境コース>

【特別プログラム（3プログラム）】

理工学部には、次の特別プログラムがあります。特別プログラム履修者は、所属する学科及びコースが求める能力・資質に加え、それぞれの特別プログラムが求める能力・資質を備えた入学者を求めていきます。

※ 各コース・プログラム単位の内容については、下記のURLを参照してください。

<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/general/policy.html>

<先端理工学特別プログラム>

〔全学科対象〕

<地域創生特別プログラム〈ものづくり系〉>

〔システム創成工学科の電気電子通信コース、知能・メディア情報コース及び機械科学コースが対象〕

<地域創生特別プログラム〈防災・まちづくり系〉>

〔システム創成工学科の社会基盤・環境コースが対象〕

(各コース共通)

<別表>検査方法と評価要素のマトリックス表<各コース・各プログラム共通>

(1) 入学者選抜方法ごとの選抜内容

入学者選抜方法	該当入試区分	選抜内容
個人面接	AO II 編入学試験 私費外国人留学生入試・前期日程試験	複数の面接担当者による個人面接を行います。志望理由について面接を行い、提出書類に関する確認を行う場合もあります。理工系学者・技術者として将来社会に貢献する意欲等を評価します。
個人面接 (口頭試問を含む)	推薦 I AO I	複数の面接担当者による個人面接を行います。志望理由や当該専門分野に関する一般的な知識について面接を行います。高校の基礎学力を確認するために、口頭試問を行います。
プレゼンテーション	AO I AO II	各プログラムにおいて出された課題に対する関心・意欲、知識・技能、思考力・判断力、表現力・コミュニケーション能力、主体性・創造性・協働性を総合的に評価します。
出願理由書・志望理由書	推薦 I AO I	志望するコースやプログラムへの出願・志望理由について1,000または800字程度を自筆で作成してください。志望理由が、各コース・各プログラムの入学者受入の方針に合致しているかを総合的に評価します。
推薦書・自己推薦書	推薦 I AO I AO II	推薦書については、文字数は任意です。自己推薦書については、志望するプログラムにより400または2,000字程度を自筆で作成してください。各プログラムで学修する適性と意欲について総合的に評価します。

調査書	推薦 I A O I A O II	高等学校での学力および生活状況（特別活動・指導上の参考となる諸事項等）について総合的に評価します。各プログラムにおいては、資格・検定試験の成績等のほか、プロジェクト活動やボランティア活動の実績、海外留学等の多様な経験がある場合には参考資料とすることもありますので詳細に記載してください。
-----	-------------------------	---

(2) 入学者選抜方法ごとの重点評価項目 [入学者選抜方法と求める学生像の関係性]

入学者選抜方法	該当入試区分	関心・意欲	知識・技能	思考力・判断力	表現力・コミュニケーション能力	主体性・創造性・協働性
(センター試験)	一般（前期）		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	一般（後期）		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	A O II					
個別学力検査 <教科>	一般（前期）		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	一般（後期）		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	編入学試験					
個人面接	A O II 編入学試験 私費外国人 留学生入試	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
個人面接 (口頭試問を含む)	推薦 I	<input type="radio"/>				
	A O I	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
プレゼンテーション	A O I	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	A O II	<input type="radio"/>				
出願/志望理由書・ (自己)推薦書	推薦 I				<input type="radio"/>	
	A O II	<input type="radio"/>				
	A O I	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
調査書	推薦 I A O I A O II	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>

※一般入試（前期日程）、一般入試（後期日程）においては調査書は総合判定時の参考とする。

農学部

1 学部概要 ※各学科分は後述

農学部は、幅広く深い教養と豊かな人間性を基礎として、農学の重要な分野である植物生命、応用生物化学、森林科学、食料生産環境、動物科学、獣医学の専門分野における、基礎的・応用的な専門知識と技能を修得することにより、地域および国際社会の食料・生命・環境の諸問題の解決に貢献できる人材の養成を目的としています。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《学部共通部分》 ※各学科分は後述

（1）知識・理解

- 農学分野の自然科学、生命科学、社会科学等を学ぶに相応しい基礎学力を有する人

（2）思考・判断

- 農学分野に関するグローバルな問題を地域の視点から論理的にとらえる思考力を有する人

（3）関心・意欲・態度

- 生命の尊さを知り、食料生産技術や生物資源の開発と利用について専門的知識を修得する意欲のある人

（4）技能・表現

- 農学分野に関する論理的思考力を有し、持続可能な社会の実現に向けて行動できる人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《学部共通》

- 理科、数学—内容の理解と応用力
- 英語、国語—基礎的な読解力、表現力、文章力
- 地歴・公民—基礎的内容の理解

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

4 入学者選抜の基本方針 《学部共通》

（1）一般入試（前期日程）

大学入試センター試験で「知識・理解」「思考・判断」を評価します。個別学力検査ではこれらに加え「技能・表現」を評価します。

（2）一般入試（後期日程）

大学入試センター試験で「知識・理解」「思考・判断」を評価します。個別学力検査では「思考・判断」「技能・表現」を評価します。

（3）推薦入試Ⅰ

小論文試験で「思考・判断」「技能・表現」を評価します。面接および出願理由書では「関心・意欲・態度」を、調査書では「知識・理解」を中心に総合的に評価します。

（4）推薦入試Ⅱ

大学入試センター試験で「知識・理解」「思考・判断」を評価します。面接および出願理由書では「思考・判断」「関心・意欲・態度」「技能・表現」を評価し、調査書では「知識・理解」を中心に総合的に評価します。

（5）私費外国人留学生入試

日本留学試験で、日本語力を含めて「知識・理解」「思考・判断」を評価します。面接および出願理由書では「関心・意欲・態度」を評価します。

【植物生命科学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

植物生命科学科では、植物および昆虫の生命現象と農学に関連する生命の機能を解明するための基礎知識を生物学や化学的な観点で学習します。さらに、農産物や農業生物を有益な資源として生かすために生命科学技術ならびに論理を学びます。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《学科分》 ※学部分は前述

（1）知識・理解・思考・判断

- ・ 生命機能の解明や生命資源利用を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 生命科学や生命資源の可能性を数量的・論理的に推理・解析できる分析力を有する人

（2）関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 食料の安定供給と環境負荷低減を両立させる戦略・論理・技術を学ぶ意欲のある人
- ・ 新たな生命現象や未利用資源に関する成果を社会へ還元する行動力のある人

【応用生物化学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

応用生物化学科では、生命の現象、食品素材の特性、生物圏での物質の動きを理解するための基礎知識を化学的な視点から学習するとともに、それらに関連する実験技術を修得します。これらをもとに、微生物・動物・植物資源の有効利用や生物機能の応用についても学びます。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《学科分》 ※学部分は前述

（1）知識・理解・思考・判断

- ・ 生命現象の解明と応用を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 食品素材特性の解明と応用を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 生物圏での物質の動きの解明と応用を学ぶに相応しい基礎学力を有する人

（2）関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 微生物や酵素の高度利用について専門的知識を修得する意欲のある人
- ・ 健康と食品機能について専門的知識を修得する意欲のある人
- ・ 食料生産と生物圏の化学的な解明について専門的知識を修得する意欲のある人

【森林科学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

森林科学科では、東北地域の恵まれた自然環境を背景として、森林の持つ多様な環境保全機能や樹木資源の生産と利用、自然生態系の保全・管理、防災を含めた幅広い分野について総合的に学びます。これらをもとに、自然との共生関係を築きながら発展できる地域社会の実現に貢献する人材を育成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《学科分》 ※学部分は前述

（1）知識・理解・思考・判断

- ・ 森林科学を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 多様な機能を活かした森づくりと利用・保全に関する知識と技術の修得に相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 森林の多面的機能を最大限に発揮できる森づくりに必要な知識と技術について学ぶ意欲のある人
- ・ 森林里山地域の自然生態系に配慮した適切な資源の利用と管理について学ぶ意欲のある人
- ・ 再生可能資源である木質バイオマスの総合的かつ持続的利用法について学ぶ意欲のある人

【食料生産環境学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

食料生産環境学科では、農業の生産基盤の整備や生活環境の向上、農村の生態系、文化・景観の保全や災害に強い地域づくり、食を取り巻く環境の急速なグローバル化および農業就業人口の減少や高齢化に対応する食料生産技術の高度化、農産物の保存・流通、6次産業化、農業経営の高度化、さらに持続可能な水産資源の管理や漁獲・増養殖、加工技術の改良と開発、グローバルな視野に立った新たな流通体系などの科学と技術を学びます。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《学科分》 ※学部分は前述

＜農村地域デザイン学コース・食産業システム学コース＞

(1) 知識・理解・思考・判断

- ・ 農業生産基盤の整備と農村環境の保全、地域振興について学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 食料生産技術、農産物の保存・流通、6次産業化、および農業経営に関する知識と技術の修得に相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 農村地域の持続的発展のために、地域資源の適切な利用・管理と農村環境の保全、および地域振興について多面的に学ぶ意欲のある人
- ・ 食料生産環境の科学的な解明や、農作業の快適化と効率化、農産物の保全と流通システムの構築、農業廃棄物の有効利用に関する理論と技術を学ぶ意欲のある人
- ・ グローバル化に対応した農業経営の高度化、グリーンツーリズムや観光を含めた農業の6次産業化や農業情報の利活用について学ぶ意欲のある人

＜水産システム学コース＞

(1) 知識・理解・思考・判断

- ・ 水産資源の管理・生産、その利活用、流通・販売に関する自然科学・社会科学の広い学問領域を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 日本と世界の水産業の持続的発展の問題解決に必要な基礎的な思考・判断力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 三陸地域の社会と水産業に関心を持ち、東日本大震災からの復興と水産業の課題に取り組む意欲のある人
- ・ 日本と世界の水産業の持続的発展の諸課題に関心を持ち、問題解決に取り組む意欲のある人
- ・ 水産業に関わる専門家としての高い倫理観を持ち、真摯に責任をもって持続的水産業構築の諸課題について積極的に携わる態度を備えた人

【動物科学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

動物科学科では、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物などの様々な動物種および飼料作物などを対象に、広く生命科学の基礎知識を学習するとともに、関連した実験技術を修得します。これらをもとに、人と動物が共生する地域社会の創造や動物関連産業の発展、生命科学の発展に貢献できる国際的視野を持った人材を育成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《学科分》 ※学部分は前述

（1）知識・理解・思考・判断

- ・ 生命現象の解明と応用を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 動物生産および動物科学に関する知識と技術の修得に相応しい基礎学力を有する人

（2）関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 動物科学への強い関心を有し、課題の探求と解決に取り組む意欲のある人
- ・ 動物に関連した産業の諸問題の探求と解決に取り組む意欲のある人
- ・ グローバルな視点から、動物に関連した産業の持続的発展に積極的な意欲を有する人

【共同獣医学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

共同獣医学科は、獣医師は人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像） 《学科分》 ※学部分は前述

（1）知識・理解・思考・判断

- ・ 獣医学を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 動物の生命現象と病態に関する課題を探求し、グローバルな視野から論理的に解決する思考力を有する人

（2）関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 動物の生命現象と病態に関心を持ち、それを継続して探求しようとする意欲のある人
- ・ 自己を啓発し実行力に優れ、獣医学の発展ならびに社会に貢献しようとする意欲のある人
- ・ 獣医師として、国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献しようとする意欲のある人

<別表>検査方法と評価要素

(1) 入学者選抜方法ごとの選抜内容

入学者選抜方法	該当入試区分	選抜内容
小論文	推薦 I 一般（後期）	文章を客観的に読解把握する力や、内容に対する自らの考え方を述べる力を検査します。
個人面接	推薦 I 推薦 II 私費外国人	複数の面接担当者による個人面接を行います。加えて推薦 IIでは、当日提示される課題に対して自らの考えを説明する面接を行います。
出願理由書	推薦 I 推薦 II 私費外国人	入学を希望する理由を本人が記入します。
調査書*	推薦 I 推薦 II	学習の記録を中心に総合的に評価します。

(2) 入学者選抜方法ごとの重点評価項目

入学者選抜方法	該当入試区分	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現
(センター試験)	一般（前期） 一般（後期） 推薦 II		○	○	
個別学力検査 <教科>	一般（前期） 一般（後期） 推薦 I	○	○		○
小論文	一般（後期） 推薦 I		○		○
個人面接	私費外国人 推薦 II		○	○	○
出願理由書	推薦 I 推薦 II 私費外国人			○	
調査書*	推薦 I 推薦 II	○		○	
(日本留学試験)	私費外国人	○	○		

*一般入試（前期日程）、一般入試（後期日程）においては、調査書は総合判定時の参考とする。

II 募集人員

学部	学科・課程等	入学定員	募集人員								備考	
			一般入試		推薦入試			AO入試		私費外国人留学生入試		
			前期日程	後期日程	I	II	被災者特別選抜	I	II			
人文社会科学院	人間文化課程	125	60	20	※40			5		若干名	※推薦入試Ⅰ 募集人員内訳 (小論文選択 20 スポーツ選択 7 美術選択 9 書道選択 4)	
	地域政策課程	75	43	14	15			3		若干名		
	計	200	103	34	55			8		若干名		
教育学部	小学校教育コース	85	45	15	25					若干名	※数学サブコース及び理科サブコースの推薦入試Ⅰの入学者は、「小学校教育専修」に所属することになります。	
	中学校教育教員養成課程	33	5							若干名		
			5							若干名		
			3							若干名		
			3							若干名		
			5	3						若干名		
			3							若干名		
			2	1						若干名		
			3							若干名		
	理数教育コース	32	12		※5					若干名		
	理科サブコース		10		※5					若干名		
	特別支援教育コース		10	5	2	3				若干名		
	計		160	101	17	42				若干名		
理工学部	化学・生命	90	38	12	10		若干名			若干名	被災者特別選抜は、東日本大震災により被害を受け、将来、被災地域の復興に熱意を有する高校生を対象に行う試験です。 AO入試Ⅰは地域創生特別プログラムの募集人員で、AO入試Ⅱは先端理工学特別プログラムの募集人員となります。	
	理工学科		17	5	3		若干名			若干名		
	物理・材料	80	22	4	4		若干名			若干名		
	理工学科		29	9	7		若干名			若干名		
	システム創成工学科	270	38	12	10		若干名			若干名		
			35	12	8		若干名			若干名		
			50	15	15		若干名			若干名		
			38	10	12		若干名			若干名		
	計		440	267	79	69		若干名	10	15	若干名	
農学部	植物生命科学科	40	30	5	5					若干名	共同獣医学科の修業年限は、6年です。	
	応用生物化学科	40	29	6	5					若干名		
	森林科学科	30	20	5	5					若干名		
	食料生産環境	60	27	7	6					若干名		
	学		11	3	6					若干名		
	動物科学科	30	22	3	5					若干名		
	共同獣医学科	30	23	4		3				若干名		
	計		230	162	33	32	3			若干名		
合計		1,030	633	163	198	3	若干名	18	15	若干名		

※ 教育学部の入学定員は学校教育教員養成課程160名ですが、入学定員欄にはコース毎の募集人員計を表示しています。

※ 推薦入試及びアドミッション・オフィス入試(AO入試)の合格者が募集人員に満たない場合、その欠員補充は一般入試で行います。

III 入学者選抜方法等

1 一般入試

学部	前 期 日 程	人 間 文 化 課 程 地 域 政 策 課 程	選抜方法等					個別学力検査等の日程	備考（欠員の補充の方法等）		
			個別学力検査を課する	個別学力検査等			2段階選抜				
				実技検査等	面接を行う	小論文を課する					
人文社会科学部	後 期 日 程	人 間 文 化 課 程 地 域 政 策 課 程	○	×	×	×	×	2月25日（月）	追加合格		
教育学部	前期日程	小学校教育コース 中学校教育コース 学校教育教員養成課程	○ ○ ○ ○ ○ ×	×	×	×	×	2月25日（月）			
		国語サブコース 社会サブコース 技術サブコース 家庭サブコース 英語サブコース 音楽サブコース 美術サブコース 保健体育サブコース	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	×	×	×	×	2月26日（火）			
		理数教育コース 数学サブコース 理科サブコース	○ ○ ○	×	×	×	×	2月25日（月）			
		特別支援教育コース	○	×	×	×	×	2月25日（月）			
	後期日程	学校教育教員養成課程	○ ○	×	×	○	○	3月12日（火）			
		小学校教育コース 特別支援教育コース	○ ○	×	×	○	○	3月12日（火）			
理工学部	前期日程	化学・生命理工学科 物理・材料理工学科 システム創成工学科	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	×	×	×	×	2月25日（月）			
	後期日程	化学・生命理工学科 物理・材料理工学科 システム創成工学科	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	×	×	×	×	3月12日（火）			
農学部	前期日程	植物生命科学科 応用生物学科 森林学科 食料生産環境学科 動物学科 共同獣医学科	○ ○ ○ ○ ○ ○	×	×	×	×	2月25日（月）			
	後期日程	植物生命科学科 応用生物学科 森林学科 食料生産環境学科 動物学科 共同獣医学科	○ ○ ○ ○ ○ ○	×	×	○	×	3月12日（火）			

・各欄の○印は該当することを、×は該当しないことを表します。

2 アドミッション・オフィス入試 (AO入試), 推薦入試, 私費外国人留学生入試

学部	学科・課程等	選抜方法等	AO入試		推薦入試				私費外国人留学生入試			備 考	
			I	II	I	II	被災者特別選抜	実技検査等			実技検査等		
			個別学力検査を免除する	個別学力検査を課す	個別学力検査及び大学入試センターテストを免除する	個別学力検査及び大学入試センター試験を課す	個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を免除する	実技検査を課す	面接を行	小論文を課す	実技検査を課す	面接を行	小論文を課す
人文社会科学院	人間文化課程 (※1)	小論文選択 スポーツ選択 美術選択 書道選択	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	
		地域政策課程	○	×	○	×	×	○	○	○	×	○	○
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	
		国語サブコース	×	×	×	×	×	×	×	○	×		
		社会サブコース	×	×	×	×	×	×	×	○	×		
		技術サブコース	×	×	×	×	×	×	×	○	×		
		家庭サブコース	×	×	×	×	×	×	×	○	×		
		英語サブコース	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	
		音楽サブコース	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	
		美術サブコース	○	×	×	○	○	×	○	○	○	×	
		保健体育サブコース	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	
		理数教育コース	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	数学サブコース及び理科サブコースの推薦入試Iの入学者は、「小学校教育専修」に所属することになります。
		理科サブコース	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	
		特別支援教育コース	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	
理工学部	化学生命理工学科	化学生命コース	×	○	○	×	○	○	○	×	○	×	AO入試IIによる入学者は、先端理工学科特別プログラム履修生となります。
		生命コース	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	
		物理・材料理工学科	×	○	○	×	○	○	○	×	○	×	AO入試IIによる入学者は、先端理工学科特別プログラム履修生となります。
		マテリアルコース	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	
	システム創成工学科	電気電子通信コース	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	AO入試Iによる入学者は地域創生特別プログラムの「づくり系」及び「防災・まちづくり系」の履修生、AO入試IIによる入学者は先端理工学科特別プログラム履修生となります。
		知能・メディア情報コース	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	
		機械科学コース	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	
		社会基盤・環境コース	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	
農学部	農学部	植物生命科学	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	
		応用生物学	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	
		森林学科	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	
		農村地域デザイン学コース	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	
		食料生産環境学科	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	
		水産システム学コース	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	
		動物学科	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	
		共同獣医学	×	○	×	×	○	○	○	×	○	×	

・各欄の○印は該当することを、×は該当しないことを表します。

(※1) 人文社会科学部人間文化課程の推薦入試Iについては、小論文選択、スポーツ選択、美術選択、書道選択の区分により試験を行います。

(※2) 理工学部私費外国人留学生入試渡日前入学許可による選抜は、面接を行いません。

3 入学者選抜の実施教科・科目等

(1) 人文社会科学院

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名										個別学力検査等										大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等															
		教科		科目名		科目名		科目名		科目名		2段階選択		試験の区分		公 民		國 語		地 壓		國 語		科 学		數 學		理 科		外 国 語		小 論 文		接 触		実 技 配 合	
		教科等	等 等	教科等	等 等	教科等	等 等	教科等	等 等	教科等	等 等	センター試験	個別学力検査	計	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②			
人文学部 人文学科 人間文化 課程	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理	国 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫政経から1 数I, 数II, 数A, 数B, 等, 情報 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学 *「基礎を付した科目(物理基礎, 化学基礎, 地学基礎)については, 2科目の受験で他の教科・科目の1科目とみなします。 英(リ)にシテ付く)が, 独, 仏, 中, 韓から1 [6教科6科目]	国 外 から2 [2教科2科目]	国語総合 数 英語表現1・II [2教科2科目]	センター試験 個別学力検査 計	200 *300 *500	100 100 100	100 *100 *400	100 *100 *100	200 *300 *500	国語 地歴 公 民 國 語 地 壓 國 語 科 学 數 學 理 科 外 国 語 小 論 文 接 触 実 技 配 合 800 600 1400	推奨 外国人 AO 追加合格																								
人文学部 人文学科 地域政策 課程	後期 3月12日	国 地歴 公民 数 理	国 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫政経 数I, 数II, 数A, 数B, 等, 情報 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学 *「基礎を付した科目(物理基礎, 化学基礎, 地学基礎)については, 2科目の受験で他の教科・科目の1科目とみなします。 英(リ)にシテ付く)が, 独, 仏, 中, 韓から1 [3教科3科目]	その他 小論文 から1 [注2]	センター試験 個別学力検査 計	200 *100 *100	100 *100 *100	100 *100 *100	100 *100 *100	200 *100 *100	国語 地歴 公 民 國 語 地 壓 國 語 科 学 數 學 理 科 外 国 語 小 論 文 接 触 実 技 配 合 500 300 800	500 300 300																									

- 備考
- 【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄
- ・ 「理科①」、「理科②」の区分は以下のとおりです。
理科① (物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎)
理科② (物理、化学、生物、地学)
 - （注1）前期日程の選択教科・科目で、「数学」から2科目を受験した場合は、どちらか高得点の成績を利用します。また、「理科」から複数科目を受験した場合は、「理科①」の2科目又は「理科②」の第1解答科目のどちらか高得点の成績を利用します。
 - （注2）後期日程の選択教科・科目で、「地理歴史」、「公民」、「数学」及び「理科」の第2解答科目及び「理科②」の第2解答科目を除いた高得点の成績を利用します。
 - ・ 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込み）者に限ります。
- 【個別学力検査等】欄
- ・ 数Aの出題範囲は、全範囲とします。
 - ・ 数Bの出題範囲は、「数列」と「ベクトル」とします。
 - ・ 小論文は2題出題とし、社会・文化・学問・教養などに関する事柄をテーマとします。
- 【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄
- ・ 配点に*印を付してある教科は選択教科を表します。
 - ・ 大学入試センター試験の「数学」①、②の区分は次のとおりです。
数学① (数学Ⅰ・数学A)
数学② (数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎)
 - ・ 大学入試センター試験の「英語」は、筆記試験（200点満点）、リスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点に換算して利用します。
なお、「英語」以外の科目を受験した者及びリスニングテストを免除された者については、筆記試験（200点満点）の成績をそのまま利用します。
 - ・ 調査書は、総合判定の資料とします。

(2) 教育学部

学部・学科等名	学力検査等の区分	日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等				大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
			教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	理	学	数	小論文	面接	実技	配合		
教育学部 小学校教育コース	前期 2月25日	国 数 地歴 公民 理	国 (数Ⅰ・数A)と (数Ⅱ・数B)等、情報から1) 世A、世B、日A、日B、 地理A、地政、倫政 現生、物理基礎、化 生物基礎、地学 物理、化学、生物 地学 *基礎を付した科目(物理基礎、生物基礎、地 学基礎)については、2科目の受験で他の教科、 科目の1科目とみなします。 [5教科7科目又は6教科7科目]	国 国語総合 (数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B)、 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B)から1 (物理基礎・物理)、(化学基礎・化学)から1 (生物基礎・生物)、(地学基礎・地学)から1 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ 英語表現Ⅰ・Ⅱ [2教科2科目]	から2 外	センター試験 個別学力検査 計	200 *100 *200 *400	100 *100 *200 *400	900 400 1300	推薦 外国人 追加合格										
教育学部 小学校教育コース	後期 3月12日	外	国 (数Ⅰ・数A)と (数Ⅱ・数B)等、情報から1) 世A、世B、日A、日B、 地理A、地政、倫政 現生、物理基礎、化 生物基礎、地学 物理、化学、生物 地学 *基礎を付した科目(物理基礎、生物基礎、地 学基礎)については、2科目の受験で他の教科、 科目の1科目とみなします。 [5教科7科目又は6教科7科目]	国 国語総合 (数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B)、 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B)から1 (物理基礎・物理)、(化学基礎・化学)から1 (生物基礎・生物)、(地学基礎・地学)から1 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ 英語表現Ⅰ・Ⅱ [2教科2科目]	から2 外	センター試験 個別学力検査 計	200 *100 *200 *400	100 *100 *200 *400	900 400 1300	推薦 外国人 追加合格										
中学校教育コース	前期 2月25日	国 数 地歴 公民 理	国 (数Ⅰ・数A)と (数Ⅱ・数B)等、情報から1) 世A、世B、日A、日B、 地理A、地政、倫政 現生、物理基礎、化 生物基礎、地学 物理、化学、生物 地学 *基礎を付した科目(物理基礎、生物基礎、地 学基礎)については、2科目の受験で他の教科、 科目の1科目とみなします。 [5教科7科目又は6教科7科目]	国 国語総合 (数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B)、 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B)から1 (物理基礎・物理)、(化学基礎・化学)から1 (生物基礎・生物)、(地学基礎・地学)から1 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ [2教科2科目]	から2 外	センター試験 個別学力検査 計	200 *100 *200 *400	100 *100 *200 *400	900 400 1300	推薦 外国人 追加合格										
理数教育コース	前期 2月26日 音楽 前期 2月26日 美術 前期 2月26日 保健体育	外	国 (数Ⅰ・数A)と (数Ⅱ・数B)等、情報から1) 世A、世B、日A、日B、 地理A、地政、倫政 現生、物理基礎、化 生物基礎、地学 物理、化学、生物 地学 *基礎を付した科目(物理基礎、生物基礎、地 学基礎)については、2科目の受験で他の教科、 科目の1科目とみなします。 [5教科7科目又は6教科7科目]	国 国語総合 (数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B)、 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B)から1 (物理基礎・物理)、(化学基礎・化学)から1 (生物基礎・生物)、(地学基礎・地学)から1 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ [2教科2科目]	から2 外	センター試験 個別学力検査 計	200 *100 *200 *400	100 *100 *200 *400	900 400 1300	推薦 外国人 追加合格										
理数教育コース	前期 2月25日	国 数 地歴 公民 理	国 (数Ⅰ・数A)と (数Ⅱ・数B)等、情報から1) 世A、世B、日A、日B、 地理A、地政、倫政 現生、物理基礎、化 生物基礎、地学 物理、化学、生物 地学 *基礎を付した科目(物理基礎、生物基礎、地 学基礎)については、2科目の受験で他の教科、 科目の1科目とみなします。 [5教科7科目又は6教科7科目]	国 国語総合 (数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B)、 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B)から1 (物理基礎・物理)、(化学基礎・化学)から1 (生物基礎・生物)、(地学基礎・地学)から1 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ 英語表現Ⅰ・Ⅱ [2教科2科目]	から2 外	センター試験 個別学力検査 計	200 *100 *200 *400	100 *100 *200 *400	900 400 1300	推薦 外国人 追加合格										

備考

【大学入試センタ】試験の利用教科・科目名】欄
「理科①」、「理科②」、「理科③」の区分は以下のとおり
理科① 物理基礎
理科② 化学基礎
理科③ 生物基礎

（注1）「理科①」について、2科目の受験で他の教科・科目の1科目とみなします。このため、「理科」の選択科目数と選択科目の組み合わせは、以下のア～エのいずれかになります。

選科目数1	選科目数2	選科目数3
ノ	イ	ウ
選科目数1	選科目数2	選科目数3
理科①	理科②	理科③

選択科目数2：「理科②」から2科目を選択する場合、「理科①」と「理科②」で同一名称を付した科目を選択しても構いません。

(注2) 「地理歴史」、「公民」から2科目目、「理科①」から2科目目及び「理科②」から1科目目を受験した場合は、下記ア～ウのうち、いずれか高得点の組み合わせを利用します。

理學教育コースにおいては、「地理歴史」、「公民」から「情報基盤」を履修する者は、第1解答科目の成績を利用します。

【個別学力検査等】欄
小学校教育課一、二年生
算数計算問題
「外因題」を試験してみた

数Ⅲの出題範囲は、全範囲とします。
数Ⅳの出題範囲は、「極限」
「微分法」
「積分法」とします。

物理の出題範囲は、「数列」と「ベクトル」と「波」、「電気と磁気」とします。

なお、社会、技術、家庭サブコース受験者は「国語」、「理科」、「数学」から2科目を選択して受験してください。

数学① 数学 I・数学 A
数学② 数学 II・数学 B
簿記・会計・情報関係基礎

大学入試センター試験の「英語」は筆記試験(200点満点)で、筆記試験(200点満点)を免除された者については、筆記試験(200点満点)の成績をそのまま利用します。

(注5) 中学校教育コース音楽サブコースにおいては、実技の得点が200点に満たない場合は、総合得点にかわらず不合格になります。

(3) 理工学部

備考
【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄
・ 「地理歴史」「公民」「から2科目受験した場合は、第1解答科目の成績を利用します。
・ 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込み）者に限ります。

【個別学力検査等】欄
・ 数Aの出題範囲は、全範囲とします。
・ 数Bの出題範囲は、「数列」「波」「ベクトル」とします。
・ 物理の出題範囲は、「様々な運動」「波」「電気と磁気」とします。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄
・ 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。
・ 大学入試センター試験の配点の「数学」①、②の区分は次のとおりです。
 数学①（数学Ⅰ・数学A）
 数学②（数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎）
・ 大学入試センター試験の「英語」は、筆記試験（200点満点）、リスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点に換算して利用します。
なお、「英語」以外の科目を受験した者及びリスニングテストを免除された者については、筆記試験（200点満点）の成績をそのまま利用します。
・ 調査書は、総合判定の資料とします。

(4) 農学部

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名	教科	科目名等	個別学力検査等	2障壁選抜	試験の区分				大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等				その他の選抜方法等 追加合格		
							学		理		科		小論文				
							数	理	國語	地歴	公民	①	②	小論文	面接	配合	
農学部	前期 2月25日	国 地政 地政 公民 数 理 外	國 地理 地理 公民 数 理 外	世A、世B、日A、日B、 物理基礎・物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、 「1教科1科目」 〔数I、数II、数Aから1〕と 〔数II、数B、簿、情報から1〕 物理、化学、生物、地学 から2 英語にシテスルを含む、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	数 I・数II・数A・数B 物理基礎・物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、 「1教科1科目」 〔から1〕	センター試験 個別学力検査 計	200 200 200	*100 *100 *100	*100 100 100	100 100 100	100 100 100	100 100 100	200 200 200	200 200 200	200 200 200	900 300 1200	推薦 外国人 追加合格
	後期 3月12日	食料生産環境 (農村地域アグ イン学コース・ 食産業システム 学コース)	國 地政 公民 数 理 外	食料生産環境 (水産システム 学コース)	小論文 その他	センター試験 個別学力検査 計	200 200 200	*100 *100 *100	*100 100 100	100 100 100	100 100 100	100 100 100	200 200 200	200 200 200	300 300 300	900 300 300	
	後期 3月12日	動物科学科	國 地政 公民 数 理 外	動物科学 科	小論文 その他	センター試験 個別学力検査 計	200 200 200	*100 *100 *100	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	300 300 300	900 300 300	
	前期 2月25日	共同獣医学科	國 地政 公民 数 理 外	共同獣医学 科	小論文 その他	センター試験 個別学力検査 計	200 200 200	*100 *100 *100	100 200 400	100 200 400	100 200 400	100 200 400	200 200 200	200 200 200	200 200 200	900 400 1300	推薦 外国人 追加合格
	後期 3月12日																

備考
【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄
・ 「地理歴史」「公民」「から2科目受験した場合は、第1解答科目の成績を利用します。
・ 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込み）者に限ります。

【個別学力検査等】欄

- ・ 数Aの出題範囲は、全範囲とします。
 - ・ 数Bの出題範囲は、「様々な運動」、「波」、「電気と磁気」とします。
 - ・ 物理の出題範囲は、「物理的な運動」、「波」、「電気と磁気」とします。
- 【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄
- ・ 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。
 - ・ 大学入試センター試験の配点の「数学」①、②の区分は次のとおりです。
数学①（数学Ⅰ・数学A）
数学②（数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎）
・ 大学入試センター試験の「英語」は、筆記試験（200点満点）、リスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点に換算して利用します。
なお、「英語」以外の科目を受験した者及びリスニングテストを免除された者については、筆記試験（200点満点）の成績をそのまま利用します。
 - ・ 調査書は、総合判定の資料とします。

IV 一般入試

1 個別学力検査実施方式

全学部とも分離・分割方式で実施します。

2 学内併願

本学を志願する者は、前期日程から一つ、後期日程から一つの合計二つの学部〔学科・課程（コース）〕又は同一の学部〔学科・課程（コース）〕に併願することができます。

3 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験で本学の指定する教科・科目のすべてを受験した者

- (1) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者（次のいずれかに該当する者）
 - ① 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者
 - ③ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限ります。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者
 - ④ 文部科学大臣の指定した者
 - ⑤ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者及び平成31年3月31日までに合格見込みの者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含みます。）で、平成31年3月31日までに18歳に達する者
 - ⑥ 本学において、個別の出願資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者

注) ⑥の資格で出願しようとする者は、「**IX その他 3 個別の出願資格審査**」の要領に従って申請してください。

4 出願期間及び合格発表日

日 程	出 願 期 間	合 格 発 表 日
前期日程	平成31年1月28日(月)から	平成31年3月6日(水)
後期日程	平成31年2月6日(水)まで	平成31年3月20日(水)

5 第2志望について

複数の分野の学修に興味を持っている受験者に広く進学機会を与えることを目的として、志望範囲を定めた上で第2志望を認め、それに基づく入学者選抜を行います。各学部における学科・課程等の志望範囲は、次のとおりです。

学 部	学 科 ・ 課 程 等 の 志 望 範 囲
人文社会科学部	<p>課程の志望は第1志望のみとします。</p> <p>なお、本学部は主副専修プログラム制を実施しており、人間文化課程と地域政策課程のいずれの課程に在籍しても、他課程のプログラムを含め幅広く学ぶことができます。</p>
教 育 学 部	<p>1 コース（又はサブコース。以下同じ。）の志望は、第2志望まで認めます。</p> <p>2 第2志望のコースが課している大学入試センター試験及び個別学力検査等を受験した者に、その第2志望を認めます。ただし、異種の実技検査を要するコースを第2志望とすることはできません。</p> <p>（※コースによって受験教科・科目が異なる場合がありますので、第1志望、第2志望いずれも必要な教科・科目を受験しているか十分確認してください。）</p>
理 工 学 部	<p>1 学部内のすべてのコースから第1志望コースと第2志望コースを選択することができます。</p> <p>なお、選考に当たっては、第1志望を重視します。</p> <p>2 第2志望コースが課している大学入試センター試験及び個別学力検査等を受験した者に、その第2志望を認めます。</p> <p>3 第2志望コースの選考に当たっては、当該コースの配点に基づいて得点を算出し選考します。</p>
農 学 部	共同獣医学科を除く各学科等の間での第2志望を認めますが、選考に当たっては、第1志望を重視します。（共同獣医学科を第2志望とすることはできません。また、共同獣医学科を第1志望とした場合、他の学科等を第2志望とすることはできません。）

※入学後のコース・プログラム等の選択について

○ 人文社会科学部

人文社会科学部の学生は入学後、自ら学びたいと考える主専修プログラムおよび副専修プログラムを2年次末に選択します。

主専修プログラムは、所属課程の専修プログラムから選択し、副専修プログラムは、主専修プログラム以外の所属課程の専修プログラム、他課程の専修プログラム、課程横断型プログラムから選択することになります。

ただし、推薦入試において人間文化課程のスポーツ選択で合格した者は主専修プログラムとしてスポーツ科学専修プログラムを、美術・書道選択で合格した者は主専修プログラムとして芸術文化専修プログラムを、それぞれ履修することになります。

●人間文化課程専修プログラム

行動科学 スポーツ科学 現代文化 異文化間コミュニティ 歴史 芸術文化
英語圏文化 ヨーロッパ語圏文化 アジア圏文化

●地域政策課程専修プログラム

政策法務 企業法務 地域社会経済 地域社会連携 環境共生

●課程横断型プログラム

グローバル・地域人材育成

○ 教育学部

小学校教育コースの学生は、1年次後期からサブコースに所属し、各カリキュラムを履修することになります。サブコースは、国語、社会、技術、家庭、英語、音楽、美術、保健体育、教育学、心理学、特別支援教育の11分野です。（小学校教育コースから数学及び理科サブコースに所属することはできません。）サブコースへの所属は各自の志望を優先しますが、人数の調整をすることがあります。

理数教育コースの学生は、入学者選抜の段階で所属するサブコース（理科あるいは数学）を決定します。また、推薦入試による入学者は小学校教育専修（小学校教員養成を主とする専修）となります。一般入試による入学者は入学後一定期間を経て、学生の志望により小学校教育専修か中学校教育専修（中学校教員養成を主とする専修）を決定します。

○ 理工学部

- ・ 1年次終了時に勉学状況や面接による進路希望や意思の確認を行い、転学科、転コース、転プログラムを許可することができます。
- ・ 先端理工学特別プログラム及び地域創生特別プログラム〈ものづくり系〉では、入学後、履修生を追加募集することができます。詳細については、<http://www.se.iwate-u.ac.jp/>をご確認ください。

○ 農学部

食料生産環境学科（水産システム学コースを除く）の学生は、2年次前期から、農村地域デザイン学コースと食産業システム学コースに分かれ、各コースのカリキュラムを履修することになります。

コースの選択は、原則として各自の志望により決定しますが、教育的配慮から人数の調整をすることがあります。

6 実技検査等

実技検査は、教育学部の学校教育教員養成課程中学校教育コース音楽サブコース、美術サブコース、保健体育サブコースで行い、それぞれのサブコースの履修を続けるために必要な実技の能力について検査します。

なお、保健体育サブコースの場合は、「運動歴調査書」を資料として、サブコースに関する特技についても検査します。

課程・コース	サブコース	日程	検査内容
学校教育教員養成課程 中学校教育コース	音楽サブコース	前期日程	<p>1 聴音…12小節程度の旋律書き取り 2 コールユーブンゲン第1巻、原書No.1からNo.85のうちから当日1曲指定します。 3 ピアノ練習曲「チェルニー40番」程度以上のエチュードを1曲、暗譜で演奏してください。曲目は出願時に申告してください。[繰り返しは省略] 4 自由選択課題 声楽、ピアノ、管楽器、弦楽器、打楽器の5つの分野から1つを選択し、それぞれ決められた課題を行います。課題は下記のとおりです。 声 楽…出願時に申告した任意の歌曲かアリアを1曲歌唱 ピアノ…出願時に申告した任意の楽曲1曲を演奏 [繰り返しは省略] 管楽器…出願時に申告した任意の楽曲1曲を演奏 弦楽器…出願時に申告した任意の楽曲1曲を演奏 打楽器…出願時に申告した任意の楽曲1曲を演奏</p> <p>注1) 自由選択課題で選択した分野はあくまでも受験のための措置であり、入学後の専門領域を決定するものではありません。 注2) 声楽を選択する者で伴奏付きの楽曲を演奏するものは、出願時に、伴奏譜を提出してください。なお、伴奏者は本学が用意します。 注3) 管楽器、弦楽器及び打楽器を選択する者は、出願時に伴奏譜を提出してください。エチュードや無伴奏作品の場合は独奏譜を提出してください。なお、当日の試験の際は伴奏者なしで演奏してください。 注4) 声楽及びピアノを選択した者は暗譜で演奏してください。管楽器、弦楽器及び打楽器を選択した者は暗譜の必要はありません。 注5) ピアノ以外の楽器は、自分一人で持ち運びできるものを持参してください。 注6) 出願後の曲目変更は認めません。</p>
	美術サブコース		<p>1 デッサン（石膏像） (1) 木炭 (2) 鉛筆 ※ 出願時に、(1) 又は (2) いずれかを選択してください。</p> <p>2 面接</p>
	保健体育サブコース		<p>1 基礎運動能力試験…下記の5種目の試験を実施します。 (1) 助走付き30m走 (2) 5-10-15m折り返し走 (3) 立ち三段跳び (4) メディシンボール投げ（後方）（男子：3kg、女子：2kg） (5) 持久走（20mシャトルラン）</p> <p>2 特技とする運動種目の成績・活動歴（運動歴調査書によります。）</p>

7 試験場

本学では、一般入試において、下記のとおり試験場を設置します。

札幌試験場で受験を希望する者は、出願時に希望試験場を選択することとなります。受験希望者が札幌試験場の収容人員を超えた場合、その超過人員は岩手大学試験場で受験することとなります。

なお、収容人員等については11月下旬に公表する「岩手大学一般入試学生募集要項」で確認してください。

学 部	日 程	試 験 場
人文社会科学部	前期日程	岩手大学試験場及び札幌試験場
	後期日程	岩手大学試験場
教 育 学 部	前期日程	岩手大学試験場
	後期日程	
理 工 学 部	前期日程	岩手大学試験場及び札幌試験場
	後期日程	
農 学 部	前期日程	岩手大学試験場及び札幌試験場
	後期日程	岩手大学試験場

岩手大学試験場：岩手大学（盛岡市上田三丁目18番8号）

札幌試験場：秀英予備校札幌校（札幌市北区北7条西1丁目1）

V 人文社会科学部アドミッション・オフィス入試 (AO入試)

岩手大学人文社会科学部では、大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除するアドミッション・オフィス入試 (AO入試) を行います。

詳細については、公表済みの「岩手大学人文社会科学部アドミッション・オフィス入試 (AO入試) 学生募集要項」で確認してください。

実施課程及び 募 集 人 員	人間文化課程 5名 地域政策課程 3名
出 願 資 格	<p>次の各号のいずれかに該当し、自身の培ったスキル、明確な志望動機や自己アピール力を有する者で、合格した場合は入学することを確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者</p> <p>(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者</p> <p>(3) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限ります。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>(4) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者及び平成31年3月31日までに合格見込みの者〔同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含みます。〕で、平成31年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(5) 本学において、個別の出願資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者 注) (5)の資格で出願しようとする者は、「IX その他 3 個別の出願資格審査」の要領に従って申請してください。</p>
選 抜 方 法 等	<p>1 第1次選考 書類審査及び面接により行います。</p> <p>2 第2次選考 第1次選考の合格者に対して、集団討論、成果発表及び面接を課し、それらを総合して判定します。（課程によって内容は異なります。）</p>
出 願 期 間	平成30年8月1日（水）～6日（月）
選 択 期 日	<p>（第1次選考）平成30年8月27日（月）～28日（火）のうち指定した日</p> <p>（第2次選考）平成30年9月20日（木）</p>
合 格 発 表 日	<p>（第1次選考）平成30年9月3日（月） 13時</p> <p>（第2次選考）平成30年10月4日（木） 13時</p>

※他の入試への出願について

アドミッション・オフィス入試に合格しなかった場合、推薦入試及び一般入試志願者と同様の手続により本学及び他の国公立大学・学部へ出願することができます。（一般入試に出願する場合、大学入試センター試験を受験する必要があります。）

VI 理工学部アドミッション・オフィス入試 (AO入試)

岩手大学理工学部では、大学入試センター試験を課さないAO入試Ⅰ及び大学入試センター試験を課すAO入試Ⅱの2区分でアドミッション・オフィス入試 (AO入試) を実施します。

詳細については、公表済みの「岩手大学理工学部アドミッション・オフィス入試 (AO入試) 学生募集要項」で確認してください。

1 AO入試Ⅰ (大学入試センター試験を課さない)

(1) 地域創生特別プログラム〈ものづくり系〉

入学者の選抜は、大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、下記の方法により行います。

対象学科・コース及び募集人員	システム創成工学科 電気電子通信コース 知能・メディア情報コース 機械科学コース	5名
出願資格	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を平成31年3月に卒業見込みの者（平成30年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月に修了見込みの者	
出願要件	次の①②を全て満たす者 ① それぞれの専門分野の学修および専門性を通じて地域社会を創生するためのリーダーシップの習得に必要な資質と意欲がある者で、合格した場合は、入学することを確約できる者 ② 出身学校において、「物理基礎、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、理数化学、科学と人間生活」から1科目以上を履修している者	
選抜方法等	1 第1次選考 書類審査により行います。 2 第2次選考 第1次選考の合格者に対して、プレゼンテーション及び面接（口頭試問を含む）を課し、基礎学力・論理的な思考力・情報収集能力・ものづくりに対する興味等を総合的に評価します。 なお、口頭試問の対象となる教科（科目）は、数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）です。数学Aの出題範囲は全範囲とします。数学Bの出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。	
出願期間	平成30年8月1日（水）～6日（月）	
選抜期日	（第1次選考）（書類選考） （第2次選考）平成30年9月21日（金）	
合格発表日	（第1次選考）平成30年9月3日（月） 13時 （第2次選考）平成30年10月4日（木） 13時	

(2) 地域創生特別プログラム〈防災・まちづくり系〉

入学者の選抜は、大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、下記の方法により行います。

対象学科・コース 及び募集人員	システム創成工学科 社会基盤・環境コース 5名
出願資格	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を平成31年3月に卒業見込みの者（平成30年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月に修了見込みの者
出願要件	次の①②を全て満たす者 ① 自身の活動実績、明確な志望動機や自己アピール力を有する者で、合格した場合は入学することを確約できる者 ② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上
選抜方法等	1 第1次選考 書類審査により行います。 2 第2次選考 第1次選考の合格者に対して、面接（口頭試問を含む）及びプレゼンテーションを課し、基礎学力、構想力、表現力、論理的な思考力、情報収集能力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。 なお、口頭試問の対象となる教科（科目）は、英語、理科（物理基礎、化学基礎の2科目）、数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）です。数学Aの出題範囲は全範囲とします。数学Bの出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
出願期間	平成30年8月1日（水）～6日（月）
選抜期日	（第1次選考）〈書類選考〉 （第2次選考）平成30年9月21日（金）
合格発表日	（第1次選考）平成30年9月3日（月） 13時 （第2次選考）平成30年10月4日（木） 13時

※他の入試への出願について

AO入試Ⅰに合格しなかった場合、推薦入試及び一般入試志願者と同様の手続により本学及び他の国公立大学・学部へ出願することができます。（一般入試に出願する場合、大学入試センター試験を受験する必要があります。）

2 AO入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す） 先端理工学特別プログラム

入学者の選抜は、本学において実施する個別学力検査を免除し、下記の方法により行います。

対象学科・コース 及び募集人員	化学・生命理工学科 5名 物理・材料理工学科 5名 システム創成工学科 5名																					
出願資格	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を平成31年3月に卒業見込みの者（平成30年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月に修了見込みの者																					
出願要件	理工学分野の学修に深い関心と意欲を持ち、同分野において、地域や日本の将来を担う意気込みを持つ者で、合格した場合は、入学を確約できる者																					
選抜方法等	<p>1 第1次選考</p> <p>出願時に提出された書類、面接及びプレゼンテーションにより、下記について評価し選考します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端理工学特別プログラムで学ぶ意欲 ・理工系科学者・技術者として将来社会に貢献する意欲 ・理工学分野に関する課題に対する関心や理解力 ・論理的思考力 ・コミュニケーション能力 <p>2 第2次選考</p> <p>第1次選考の合格者には、大学入試センター試験の受験（4教科6科目）を課し、第1次選考の得点（40点満点に換算）及びセンター試験の合計が概ね560点以上である者を合格者とします。</p> <p>＜大学入試センター試験で受験を要する教科・科目＞</p> <p>学科によって、理科の受験科目が異なります。なお、理科以外の受験教科・科目については、全学科共通です。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学科</th> <th colspan="2">受験を要する教科・科目名</th> <th rowspan="2">受験を要する教科・科目数</th> </tr> <tr> <th>教科</th> <th>科目名等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">全学科</td> <td>国</td> <td>国語</td> <td rowspan="3">4教科6科目</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>(数Ⅰ・数A) と (数Ⅱ・数B) の2科目</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1科目</td> </tr> <tr> <td>化学・生命理工学科 システム創成工学科</td> <td>理</td> <td>物理、化学、生物から2科目</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>物理・材料理工学科</td> <td>理</td> <td>物理と化学</td> </tr> </tbody> </table>	学科	受験を要する教科・科目名		受験を要する教科・科目数	教科	科目名等	全学科	国	国語	4教科6科目	数	(数Ⅰ・数A) と (数Ⅱ・数B) の2科目	外	英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1科目	化学・生命理工学科 システム創成工学科	理	物理、化学、生物から2科目		物理・材料理工学科	理	物理と化学
学科	受験を要する教科・科目名		受験を要する教科・科目数																			
	教科	科目名等																				
全学科	国	国語	4教科6科目																			
	数	(数Ⅰ・数A) と (数Ⅱ・数B) の2科目																				
	外	英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1科目																				
化学・生命理工学科 システム創成工学科	理	物理、化学、生物から2科目																				
物理・材料理工学科	理	物理と化学																				
出願期間	平成30年9月10日（月）～13日（木）																					
選抜期日	（第1次選考）平成30年9月29日（土） （第2次選考）（大学入試センター試験を受験）																					
合格発表日	（第1次選考）平成30年10月10日（水） 13時 （第2次選考）平成31年2月8日（金） 15時																					

※他の入試への出願について

AO入試Ⅱに合格しなかった場合に備えて、推薦入試及び一般入試志願者と同様の手続により本学及び他の国公立大学・学部へ出願することができます。（一般入試に出願する場合、大学入試センター試験を受験する必要があります。）

VII 推薦入試

1 推薦入試 I

大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除する推薦入試 I を行います。

なお、推薦入試 I に出願できる者は、合格した場合、入学を確約できる者とします。

(1) 実施する学部、学科・課程及び募集人員等(出願要件、選抜方法等は次ページ以降参照)

学部	学科・課程等		募集人員	出願期間	選抜期日	合格発表日
人文社会 科学部	人間文化課程	小論文選択	20名	平成30年 11月1日(木) ～ 11月7日(水)	11月1日(木) ～ 11月28日(水)	平成30年 12月7日(金)
		スポーツ選択	7名			
		美術選択	9名			
		書道選択	4名			
	地域政策課程		15名			
教育学部	学校教育 教員養成 課程	小学校教育コース	25名	平成30年 11月1日(木) ～ 11月28日(水)	11月1日(木) ～ 11月28日(水)	平成30年 12月7日(金)
		中学校教育 英語サブコース	3名			
		コース 美術サブコース	1名			
		理数教育 数学サブコース	5名			
		コース 理科サブコース	5名			
		特別支援教育コース	3名			
	理工学部	化学・生命 理工学科	化学コース 生命コース	10名 3名		
農学部	物理・材料 理工学科	物理・材料 理工学科	数理・物理コース マテリアルコース	4名 7名		
		システム 創成工学科	電気電子通信コース 知能・メディア情報コース	10名 8名		
			機械科学コース	15名		
			社会基盤・環境コース	12名		
	農学部	植物生命科学科		5名		
		応用生物学 科		5名		
		森林学科		5名		
		食料生産 環境学科	農村地域デザイン学コース 食産業システム学コース	6名		
			水産システム学コース	6名		
		動物科学科		5名		

(2) 一般入試への出願

推薦入試 I に合格しなかった場合、一般入試志願者と同様の手続により本学及び他の国公立大学・学部へ出願することができます。(大学入試センター試験を受験する必要があります。)

(3) その他

推薦入試 I の詳細については、9月上旬に「岩手大学推薦入試学生募集要項」で公表する予定です。

人文社会科学部

課程等	出願要件	選抜方法等
人間文化課程	小論文選択 高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者 ・ 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.3以上の者 なお、推薦できる人数は、1校3名以内とします。	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、小論文、面接、出身校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	スポーツ選択 【注1】 高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を平成31年3月に卒業見込みの者（平成30年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月に修了見込みの者で、次の三つ条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者 ① 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者 ② 競技者として、スポーツの技能に秀でた者 ③ スポーツの理論と指導に関する勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 なお、推薦できる人数は、1校2名以内とします。	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、小論文、面接、出身校長からの推薦書、調査書、運動歴調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	美術選択 書道選択 【注2】 高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、①の条件（必須）を満たしたうえで、②又は③に該当し、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者 ① 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者 ② 出身学校で美術・工芸・デザイン・書道等の科目を履修している者で、その成績が特に優れている者 ③ 美術または書道の表現に秀でた者 なお、推薦できる人数は、美術選択、書道選択それぞれ1校2名以内とします。	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、実技検査、面接、出身校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。 受験時には、資料ファイル（これまでに制作した作品や芸術活動についてまとめた資料・様式任意）を持参してください。面接の際に、資料ファイルについての説明を求めます。 なお、資料ファイルには、出身校長の証明書を添付してください。 実技検査の詳細については、次ページで確認してください。

【注1】スポーツ選択で合格した者は、主専修プログラムとしてスポーツ科学専修プログラムを履修することになります。

【注2】美術選択・書道選択で合格した者は、主専修プログラムとして芸術文化専修プログラムを履修することになります。

※ 推薦人数については、分校は、本校とは別に1校として取り扱います。

課程等	出願要件	選抜方法等
地域政策課程	<p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.3以上の者 <p>なお、推薦できる人数は、1校2名以内とします。</p>	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、小論文、面接、出身校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。

※ 推薦人数については、分校は、本校とは別に1校として取り扱います。

実技検査

人間文化課程の美術選択及び書道選択の実技検査の内容は下記のとおりです。

受験時に以下の用具を持参してください。

区分	検査内容	持参する用具
美術選択	<p>デッサン</p> <p>(1) 木炭 (2) 鉛筆</p> <p>※ 出願時に、(1)又は(2)のいずれかを選択してください。</p>	<p>木炭用具一式又は鉛筆用具一式</p> <p>※ 木炭紙又は画用紙及びカルトンは大学で用意します。</p>
書道選択	<p>臨書</p> <p>(1) 漢字（楷書、行書）</p> <p>(2) 仮名（原寸）</p>	<p>書道用具一式</p> <p>毛筆（太字用・細字用）、墨（固形又は液体）、硯、文鎮</p> <p>※ 下敷、解答用紙、吸い取り紙は大学で用意します。字典、教科書、参考資料、消しゴム、持参用紙は、試験場では使用できません。</p>

教育学部

課程・コース	出願要件	選抜方法等
学校教育教員養成課程	<p>小学校教育コース</p> <p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者 <p>なお、推薦できる人数は、1校2名以内とします。</p>	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、小論文、面接、出身校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	<p>中学校教育コース</p> <p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者 <p>なお、推薦できる人数は、1校1名とします。</p>	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、小論文、面接（英語による口頭試問を含む）、出身校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	<p>中学校教育コース</p> <p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者 <p>なお、推薦できる人数は、1校1名とします。</p>	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、実技検査、面接、出身校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。 受験時には、資料ファイル（これまでに制作した作品や芸術活動についてまとめた資料・様式任意）を持参してください。面接の際に、資料ファイルについての説明を求めます。 なお、資料ファイルには、出身校長の証明書を添付してください。 実技検査の詳細については、次ページで確認してください。
	<p>理数教育コース</p> <p>数学サブコース</p> <p>理科サブコース【注】</p> <p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者 ② 入学後は小学校教育専修に所属することを確約できる者 <p>なお、推薦できる人数は、それぞれのサブコースで1校1名とします。</p>	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、小論文、面接、出身校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。

課程・コース		出願要件	選抜方法等
学校教育教員養成課程	特別支援教育コース	<p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者 <p>なお、推薦できる人数は、1校1名とします。</p>	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、小論文、面接、出身校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。

【注】数学サブコース及び理科サブコースの入学者は、「小学校教育専修」に所属することになります。

※ 推薦人数については、分校、定時制、通信制は、本校とは別に1校として取り扱います。

実技検査

中学校教育コース美術サブコースの実技検査の内容は次のとおりです。

受験時に以下の用具を持参してください。

コース	検査内容	持参する用具
中学校教育コース	デッサン（石膏像）	木炭用具一式又は鉛筆用具一式
美術サブコース	(1) 木炭 (2) 鉛筆 ※ 出願時に、(1)又は(2)のいずれかを選択してください。	※ 木炭紙又は画用紙及びカルトンは大学で用意します。

理工学部

		出願要件	選抜方法等
全学科・コース 共通事項		高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を平成31年3月に卒業見込みの者（平成30年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月に修了見込みの者	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、面接（口頭試問を含みます。）、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
学科・コース	出願要件		選抜方法等
化学・生命理工学科	化学コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 化学分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者</p> <p>ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上</p> <p>イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上</p> <p>なお、推薦できる人数は、1校3名以内とします。</p>	<p>口頭試問の対象となる教科（科目）は、数学（数学I、数学II、数学A、数学B）、理科（化学基礎）と外国語（英語）です。</p> <p>また、出題内容は基礎的な内容とします。</p> <p>※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。数学Bの出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。</p>
	生命コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 生命科学分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者</p> <p>ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上</p> <p>イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上</p> <p>なお、推薦できる人数は、1校3名以内とします。</p>	<p>口頭試問の対象となる教科（科目）は、数学（数学I、数学II、数学A、数学B）と外国語（英語）です。</p> <p>また、出題内容は基礎的な内容とします。</p> <p>※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。数学Bの出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。</p>
物理・材料理工学科	数理・物理コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 数理科学・物理科学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者</p> <p>ア 「物理基礎、化学基礎」の2科目及び「物理、化学」から1科目以上</p> <p>イ 「理数物理、理数化学」の2科目</p> <p>なお、推薦できる人数は、1校3名以内とします。</p>	<p>口頭試問の対象となる教科（科目）は、数学（数学I、数学II、数学A、数学B）、理科（「物理基礎」か「化学基礎」のどちらかを選択）及び外国語（英語）です。</p> <p>また、出題内容は基礎的な内容とします。</p> <p>※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。数学Bの出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。</p>
	マテリアルコース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 物質科学・材料工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者</p> <p>ア 「物理基礎、化学基礎」の2科目及び「物理、化学」から1科目以上</p> <p>イ 「理数物理、理数化学」の2科目</p> <p>なお、推薦できる人数は、1校3名以内とします。</p>	<p>口頭試問の対象となる教科（科目）は、数学（数学I、数学II、数学A、数学B）、理科（「物理基礎」か「化学基礎」のどちらかを選択）及び外国語（英語）です。</p> <p>また、出題内容は基礎的な内容とします。</p> <p>※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。数学Bの出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。</p>

学科・コース	出願要件	選抜方法等
システム創成工学科	電気電子通信コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 電気電子通信工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、化学、理数化学、科学と人間生活」から1科目以上を履修している者 なお、推薦できる人数は、1校2名以内とします。</p>
	知能・メディア情報コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 知能・メディア情報工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、化学、理数化学、科学と人間生活」から1科目以上を履修している者 なお、推薦できる人数は、1校2名以内とします。</p>
	機械科学コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 機械科学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、理数化学」から1科目以上を履修している者 なお、推薦できる人数は、1校2名以内とします。</p>
	社会基盤・環境コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 社会基盤・環境工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上 なお、推薦できる人数は、1校3名以内とします。</p>

- ※ 定時制を有する高等学校については、定時制枠として別枠で、1名の推薦を認めます。
- ※ 先端理工学特別プログラムでは、入学後、履修生を追加募集することがあります。詳細については、<http://www.se.iwate-u.ac.jp/> をご確認ください。
- ※ 大学入試センター試験は課しませんが、合格後の学習継続と本学入学後の学修に支障をきたさないために、大学入試センター試験を受験することを強く推奨します。

農学部

学科	出願要件	選抜方法等
植物生命科学科 応用生物化学科 森林科学科 食料生産環境学科 〔農村地域デザイン学コース〕 〔食産業システム学コース〕 食料生産環境学科 〔水産システム学コース〕 動物科学科	<p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校校長が責任をもって推薦できる者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者 <p>なお、推薦できる人数は、食料生産環境学科を除くそれぞれの学科で1校2名以内とします。食料生産環境学科は「農村地域デザイン学コース・食産業システム学コース」で1校2名以内、「水産システム学コース」で1校2名以内とします。</p>	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、小論文、面接、出身校校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。

2 推薦入試Ⅱ

本学において実施する個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課す推薦入試Ⅱを行います。

なお、推薦入試Ⅱに出願できる者は、合格した場合、入学を確約できる者とします。

(1) 実施する学部、学科及び募集人員等

実施学部・学科名	農学部 共同獣医学科					
募集人員	3名					
出願要件	<p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を平成31年3月に卒業見込みの者（平成30年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.3以上の者 ② 出身学校において、物理（「物理基礎、物理、理数物理」から1科目）、化学（「化学基礎、化学、理数化学」から1科目）及び生物（「生物基礎、生物、理数生物」から1科目）の科目のうち2科目以上を履修している者 なお、推薦できる人数は、1校1名とします。</p>					
選抜方法等	<p>本学において実施する個別学力検査を免除し、大学入試センター試験の成績、面接、出身校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。</p> <p>なお面接は、個人面接に加え、当日提示される課題に対して自らの考えを説明する課題個人面接を行います。</p> <p>大学入試センター試験の利用教科・科目名</p> <table border="1"><thead><tr><th>教科</th><th>科目名等</th></tr></thead><tbody><tr><td>国 地歴 公民 数 理 外</td><td>国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経、倫政経 (数I・数A)と(数II・数B、簿、情報から1) 物理、化学、生物から2 英(リスニングテストを含む)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]</td></tr></tbody></table>		教科	科目名等	国 地歴 公民 数 理 外	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経、倫政経 (数I・数A)と(数II・数B、簿、情報から1) 物理、化学、生物から2 英(リスニングテストを含む)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]
教科	科目名等					
国 地歴 公民 数 理 外	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経、倫政経 (数I・数A)と(数II・数B、簿、情報から1) 物理、化学、生物から2 英(リスニングテストを含む)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]					
出願期間	平成30年12月17日（月）～19日（水）					
選抜期日	平成31年1月25日（金）					
合格発表日	平成31年2月8日（金）					

備考

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ・「地理歴史」、「公民」から2科目受験した場合は、第1解答科目の成績を利用します。
- ・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込み）者に限ります。

(2) 一般入試への出願

推薦入試Ⅱに合格しなかった場合に備えて、一般入試志願者と同様の手続により本学及び他の国公立大学・学部へ出願することができます。

(3) その他

推薦入試Ⅱの詳細については、9月上旬に「岩手大学推薦入試学生募集要項」で公表する予定です。

3 被災者特別選抜

東日本大震災により被害を受け、将来、被災地域の復興に熱意を有する高校生を対象に被災者特別選抜を行います。

なお、被災者特別選抜に出願できる者は、合格した場合、入学を確約できる者とします。

東日本大震災により被害を受けた高校生とは、次のいずれかに該当する被害を受けた者であり、出身高等学校長による被災者認定が必要です。

- ① 本人または学資を主として負担している者の住居が全半壊、全半焼、流失した者
- ② 学資を主として負担している者が死亡または行方不明になっている者
- ③ 東京電力福島第一原子力発電所の事故により避難勧告を受け、避難している者
- ④ 学資を主として負担している者の収入が著しく減少した者
- ⑤ その他、上記の被害と同程度以上の被害を受けた者

(1) 実施する学部、学科・課程及び募集人員等 (出願要件、選抜方法等は次ページ以降参照)

学部	学科・課程等		募集人員	出願期間	選抜期日	合格発表日
理工学部	化学・生命 理工学科	化学コース	若干名	平成30年 11月1日(木) ~ 11月7日(水)	平成30年 11月28日(水)	平成30年 12月7日(金)
		生命コース	若干名			
	物理・材料 理工学科	数理・物理コース	若干名		平成30年 11月28日(水)	平成30年 12月7日(金)
		マテリアルコース	若干名			
	システム 創成工学科	電気電子通信コース	若干名			
		知能・メディア情報コース	若干名			
		機械科学コース	若干名			
		社会基盤・環境コース	若干名			

(2) 一般入試への出願

被災者特別選抜に合格しなかった場合、一般入試志願者と同様の手続きにより本学及び他の国公立大学・学部へ出願することができます。(大学入試センター試験を受験する必要があります。)

(3) その他

被災者特別選抜の詳細については、9月上旬に「岩手大学推薦入試学生募集要項」で公表する予定です。

理工学部

		出願要件	選抜方法等
全学科・コース 共通事項		高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を平成31年3月に卒業見込みの者（平成30年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月に修了見込みの者	大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除し、面接（口頭試問を含みます。）、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
学科・コース	出願要件		選抜方法等
化学・生命理工学科	化学コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 化学分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者</p> <p>ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上</p> <p>イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上</p> <p>なお、推薦できる人数は、1校5名以内（推薦入試Iを含む）とします。</p>	<p>口頭試問の対象となる教科（科目）は、数学（数学I、数学II、数学A、数学B）、理科（化学基礎）と外国語（英語）です。</p> <p>また、出題内容は基礎的な内容とします。</p> <p>※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。数学Bの出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。</p>
	生命コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 生命科学分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者</p> <p>ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上</p> <p>イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上</p> <p>なお、推薦できる人数は、1校4名以内（推薦入試Iを含む）とします。</p>	<p>口頭試問の対象となる教科（科目）は、数学（数学I、数学II、数学A、数学B）と外国語（英語）です。</p> <p>また、出題内容は基礎的な内容とします。</p> <p>※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。数学Bの出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。</p>
物理・材料理工学科	数理・物理コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 数理科学・物理科学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者</p> <p>ア 「物理基礎、化学基礎」の2科目及び「物理、化学」から1科目以上</p> <p>イ 「理数物理、理数化学」の2科目</p> <p>なお、推薦できる人数は、1校5名以内（推薦入試Iを含む）とします。</p>	<p>口頭試問の対象となる教科（科目）は、数学（数学I、数学II、数学A、数学B）、理科（「物理基礎」か「化学基礎」のどちらかを選択）及び外国語（英語）です。</p> <p>また、出題内容は基礎的な内容とします。</p> <p>※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。数学Bの出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。</p>
	マテリアルコース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 物質科学・材料工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者</p> <p>ア 「物理基礎、化学基礎」の2科目及び「物理、化学」から1科目以上</p> <p>イ 「理数物理、理数化学」の2科目</p> <p>なお、推薦できる人数は、1校5名以内（推薦入試Iを含む）とします。</p>	<p>口頭試問の対象となる教科（科目）は、数学（数学I、数学II、数学A、数学B）、理科（「物理基礎」か「化学基礎」のどちらかを選択）及び外国語（英語）です。</p> <p>また、出題内容は基礎的な内容とします。</p> <p>※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。数学Bの出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。</p>

学科・コース	出願要件	選抜方法等
システム創成工学科	電気電子通信コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 電気電子通信工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、化学、理数化学、科学と人間生活」から1科目以上を履修している者 なお、推薦できる人数は、1校4名以内（推薦入試Iを含む）とします。</p>
	知能・メディア情報コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 知能・メディア情報工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、化学、理数化学、科学と人間生活」から1科目以上を履修している者 なお、推薦できる人数は、1校4名以内（推薦入試Iを含む）とします。</p>
	機械科学コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 機械科学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、理数化学」から1科目以上を履修している者 なお、推薦できる人数は、1校4名以内（推薦入試Iを含む）とします。</p>
	社会基盤・環境コース	<p>次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 社会基盤・環境工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p> <p>② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上 なお、推薦できる人数は、1校5名以内（推薦入試Iを含む）とします。</p>

- ※ 定時制を有する高等学校については、定時制枠として別枠で、1名の推薦を認めます。
- ※ 被災者特別選抜の出願者は、推薦入試I及び被災者特別選抜の両試験の受験者として取り扱います。
- ※ 先端理工学特別プログラムでは、入学後、履修生を追加募集することができます。詳細については、<http://www.se.iwate-u.ac.jp/> をご確認ください。
- ※ 大学入試センター試験は課しませんが、合格後の学習継続と本学入学後の学修に支障をきたさないために、大学入試センター試験を受験することを強く推奨します。

VIII 私費外国人留学生入試

大学入試センター試験を免除し、本学が実施する個別学力検査等（小論文、面接）、日本留学試験及び出願書類を総合して判定する私費外国人留学生入試（前期日程）を行います。

なお、理工学部のみ大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査等を免除し、日本留学試験及び出願書類を総合して判定する私費外国人留学生入試（渡日前入学許可）も行います。

1 出願資格

下記の表に該当する者のうち、次の(1), (2), (3)の全てに該当する者

学部 出願区分	人文社会科学部	教育学部	理工学部	農学部
前期日程	日本国内在住者 及び 日本国外在住者	日本国内在住者 及び 日本国外在住者	日本国内在住者	日本国内在住者 及び 日本国外在住者
渡日前入学許可	—	—	日本国外在住者	—

- (1) 日本国籍を有しないで、出入国管理及び難民認定法において大学の入学に支障のない在留資格を有する者又は取得できる見込みの者
- (2) 次のアからキのいずれかに該当する者
- ア 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - イ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者
 - ウ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者
 - エ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者
 - オ グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められるジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格を有する者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者
 - カ 国際的な評価団体（WASC, ECIS, ACSI）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設の12年の課程を修了した者及び修了見込みの者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者
 - キ 本学において、個別の出願資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者
- (3) 志願する学部の指定する日本留学試験を受験した者
- ただし、教育学部、理工学部及び農学部共同獣医学科を志願する者は、次の要件も満たしていること。
- ア 教育学部志願者は、日本留学試験の日本語（読解、聴解・聴読解）の合計が280点以上、かつ、日本語記述の得点が35点以上であること。
 - イ 理工学部志願者は、日本留学試験の日本語（読解、聴解・聴読解）の合計が、渡日前入学許可では280点以上、前期日程では260点以上であること。
 - ウ 農学部共同獣医学科志願者は、日本留学試験の日本語（読解、聴解・聴読解）、数学及び理科の合計が640点以上（そのうち日本語の合計が300点以上）、かつ、日本語記述の得点が35点以上であること。

注1) (2)のキの資格で出願しようとする者は、「IX その他 3 個別の出願資格審査」の要領に従って申請してください。

注2) 日本国籍を有しない者であっても、日本の高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者又は同等以上の資格を得た者及び日本の永住許可を得ている者は、一般入試の入学志願者と同じ扱いになり、この入試には出願できません。

2 選抜方法等

学 部 項 目		人文社会科学部	教育学部	理工学部	農学部
試験区分		前期日程	前期日程	渡日前入学許可	前期日程
募集人員		若干名	若干名	若干名	若干名
本学で実施する個別学力検査等		小論文 面接	面接（注1）	課さない (注2)	面接 面接
日本留学試験 (注4)	利用科目	文系（日本語・総合科目・数学） 又は理系（日本語・理科・数学）	文系（日本語・総合科目・数学） 又は理系（日本語・理科・数学）	理系（日本語・理科・数学）	理系（日本語・理科・数学）
	数学のコース1,コース2の別(注3)	どちらでもよい	どちらでもよい	コース2	どちらでもよい
	理科の選択する2科目	3科目から任意の2科目選択	3科目から任意の2科目選択	3科目から任意の2科目選択	3科目から任意の2科目選択
	日本留学試験の出題言語	日本語、英語のどちらでもよい	日本語	日本語	日本語、英語のどちらでもよい
選抜方法等		大学入試センター試験を免除し、以下の選抜方法で判定します。 (1) 前期日程 本学が実施する個別学力検査等（小論文、面接）、日本留学試験及び出願書類を総合して判定します。 (2) 国外出願（渡日前入学許可）※理工学部のみ実施 本学が実施する個別学力検査等を免除し、日本留学試験及び出願書類を総合して判定します。			
出願期間		前期日程 国外出願（渡日前入学許可）	平成31年1月28日(月)～2月6日(水)まで 平成31年1月4日(金)～9日(水)まで		
選抜期日		前期日程 国外出願（渡日前入学許可）	平成31年2月25日(月)（教育学部は平成31年2月26日火） 書類審査		
合格発表日		前期日程 国外出願（渡日前入学許可）	平成31年3月6日(水) 平成31年2月8日(金)		

- 注1) 教育学部の学校教育教員養成課程中学校教育コース音楽サブコース及び美術サブコースの志願者については、面接時にそれぞれのサブコースの履修に必要な実技の能力についても検査します。
美術サブコースの志願者は、作品（1年以内に制作した主な作品2点）、又は資料ファイル（これまでに制作した作品についての資料・様式任意）を試験当日持参してください。面接時に作品についての説明を求めます。
- 注2) 理工学部では日本国外在住の志願者に対して、本学が実施する個別学力検査等を免除し日本留学試験及び出願書類により選抜を行う渡日前入学許可を実施します。
- 注3) コース1は、数学を必要とする程度が比較的少ない学部用
コース2は、数学を高度に必要とする学部用
- 注4) 日本留学試験については、独立行政法人日本学生支援機構（〒153-8503 東京都目黒区駒場4-5-29
☎ 03-6407-7457 FAX 03-6407-7462）に照会してください。

3 その他

私費外国人留学生入試の詳細については、11月上旬に「岩手大学私費外国人留学生入試学生募集要項」で公表する予定です。

IX その他

1 予期せぬ事態が発生した場合の選抜方法について

大規模災害等、予期せぬ事態が発生した場合、選抜方法を変更することがあります。

2 検定料免除

岩手大学では、災害救助法適用の災害により被災した方が、経済的な理由により大学進学を断念する事がないよう、検定料について免除措置を行います。申請する方は、出願手続の際に一緒に申請手続を行ってください。

なお、申請手続等の詳細については、岩手大学ホームページ (<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/index.html>) で確認してください。

3 個別の出願資格審査

本学に学校教育法施行規則第150条第7号の規定により出願しようとする者については、次のとおり事前に出願資格審査を行います。

(1) 出願資格審査の対象者

- ① 高等学校に相当する、外国人を対象に教育を行うことを目的とした教育施設を卒業（修了）した者又は卒業（修了）見込みの者
- ② 各種の学校等での学習歴及び社会での実務経験等が、高等学校卒業と同等以上であることを客観的に確認できる者

※ 人文社会科学部アドミッション・オフィス入試 (AO入試) は、②のみを対象とします。

(2) 申請期間及び申請方法

出願資格の認定を受けようとする者は、下記の期日までに申請書類を取りそろえて申請してください。

なお、郵送する場合は、必ず書留郵便とし封筒の表に「大学出願資格認定申請書在中」と朱書きしてください。

入試区分	申請期間
人文社会科学部アドミッション・オフィス入試 (AO入試)	平成30年7月6日（金）まで
一般入試	平成30年8月29日（水）まで
※大学入試センター試験出願後に、志望大学を本学へ変更し出願する者	平成31年1月22日（火）まで
私費外国人留学生入試	渡日前入学許可
	前期日程
	平成30年11月30日（金）まで
	平成31年1月4日（金）まで

(3) 申請書類等

申請書類等は、下記のホームページで確認してください。

なお、「出願資格認定申請書」は、岩手大学学務部入試課へ請求することも可能です。
<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/undergraduate/requirements.html>

(4) 審査の方法及び審査期間

審査は、提出された申請書類により原則として下記の期日までに行います。

入試区分	審査期間
人文社会科学部アドミッション・オフィス入試 (AO入試)	平成30年7月10日(火)まで
一般入試	平成30年9月14日(金)まで
※大学入試センター試験出願後に、志望大学を本学へ変更し出願する者	平成31年1月25日(金)まで
私費外国人留学生入試	渡日前入学許可 平成30年12月7日(金)まで 前期日程 平成31年1月8日(火)まで

(5) 審査機関

岩手大学入試委員会の審査を経て、岩手大学長が認定します。

(6) 審査基準

① 「(1) 出願資格審査の対象者」の①に該当する者

申請者の当該教育施設の教育内容等が高等学校学習指導要領に準じているかを精査し、高等学校と同等以上であるかを審査します。その結果、高等学校の教育内容と同等以上と認められ、かつ申請者が必要単位を修得（修得見込み）している場合は、原則として「高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある者」として認定します。

② 「(1) 出願資格審査の対象者」の②に該当する者

申請者の学習歴及び社会での実績等について精査し、高等学校卒業と同等以上の学力があるかを審査します。その結果、学習歴等について高等学校卒業と同等以上の学力があると認められた場合は、原則として「高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある者」として認定します。

(7) 審査結果の通知

審査の結果、出願資格を認められた者については、下記の期日までに申請者あてに「岩手大学出願資格認定書」を送付します。

なお、出願資格を認められなかった者については、理由を付して結果を送付します。

入試区分	審査結果の通知
人文社会科学部アドミッション・オフィス入試 (AO入試)	平成30年7月13日(金)まで
一般入試	平成30年9月25日(火)まで
※大学入試センター試験出願後に、志望大学を本学へ変更し出願する者	平成31年1月28日(月)まで
私費外国人留学生入試	渡日前入学許可 平成30年12月14日(金)まで 前期日程 平成31年1月15日(火)まで

(8) 岩手大学入学者選抜試験の受験について

「岩手大学出願資格認定書」の交付を受けた者は、本学の入学者選抜試験に出願することができます。出願の際は、必ず「岩手大学出願資格認定書」の写しを提出してください。

(9) 送付先及び問い合わせ先

岩手大学学務部入試課

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

☎ 019-621-6064

4 入試過去問題活用宣言について

本学は、「入試過去問題活用宣言」に参加しており、本学のアドミッション・ポリシーに基づき、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学の入試過去問題を使用して出題することがあります。

- (1) 「入試過去問題活用宣言」についての詳細及び参加大学の一覧は、次のURLで公表しています。
<http://www.nyushikakomon.jp>
- (2) 入試過去問題は、そのまま使用する場合も一部改変して使用する場合もあります。また、必ず使用するとは限りません。
- (3) 過去問題を使用した場合は、入学者選抜試験終了後、出典等を公表します。

5 障がい等を有する入学志願者との事前相談

本学に入学を志願する者で、障がいあるいは疾病等により受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合（本学ホームページ <https://www.iwate-u.ac.jp/admission/general/handicapped.html> 参照）は、出願の前に、「事前相談について」（次ページ様式参照）を提出してください。

なお、必要により、本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行う場合がありますので、できるだけ早めに提出してください。

また、期限後に不慮の事故等により、受験上の特別な配慮が必要となった場合には、速やかに連絡してください。

(1) 相談の時期

アドミッション・オフィス入試（AO入試）	平成30年7月6日（金）まで
推薦入試	平成30年9月28日（金）まで
私費外国人留学生入試（渡日前入学許可）	平成30年12月7日（金）まで
一般入試、私費外国人留学生入試（前期日程）	平成31年1月16日（水）まで

(2) 提出先

岩手大学学務部入試課

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

平成 年 月 日

岩手大学長 殿

氏名

(志願者との関係)

)

住 所

電 話

— —

事前相談について

下記により事前に相談したいので、関係書類を添えて提出します。

記

1 志願者氏名

氏名	男・女	生年月日	昭和 年 月 日	平成 年 月 日
現住所	〒 -	電話	-	-
出身学校名		電話	-	-

2 志望学部等名

学部・学科等	学部	学科 課程	コース
出願区分 (出願区分を○で囲む)	AO I AO II 推薦 I 推薦 II	私費外国人	前期日程 後期日程

3 障がいの種類・程度

4 受験上特別な配慮を希望する事項・内容

5 修学上特別な配慮を希望する事項・内容

6 出身学校在学中にとられていた特別な配慮

7 日常生活の状況

8 添付書類

- (1) 健康診断書
- (2) その他

注1 出身学校関係者等が記入してください。

注2 6の「出身学校在学中にとられていた特別な配慮」については、詳細に記入してください。

注3 本用紙に書ききれない場合には、適宜別紙に記入しても構いません。

注4 健康診断書等の書類は、写しで構いませんので、必ず添付してください。

注5 ※欄には記入しないでください。

※ 大学記入欄

6 入試情報の提供

(1) 平成30年度一般入試合格者の最高点・最低点・平均点

学部名	学科・課程(コース)名	前期日程				後期日程			
		配点	最高点	最低点	平均点	配点	最高点	最低点	平均点
人間文化科学部	人間文化課程	1,400	1,120	909	982	800	669	594	628
	地域政策課程	1,400	1,142	847	958	800	634	580	603
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	1,300	1,056	807	855	1,300	884	806
		国語サブコース	1,300	903	848	869			
		社会サブコース	1,300	921	848	872			
		技術サブコース	1,300	—	—	—			
		家庭サブコース	1,300	—	—	—			
		英語サブコース	1,300	—	—	—			
		音楽サブコース	1,300	—	—	—			
		美術サブコース	1,300	—	—	—			
		保健体育サブコース	1,300	—	—	—			
		理数教育コース	1,300	1,003	824	905			
		理科サブコース	1,300	1,016	845	910			
		特別支援教育コース	1,300	—	—	—	1,300	—	—
理工学部	化学・生命理工学科	化学コース	1,500	1,229	834	961	1,300	1,020	799
		生命コース	1,500	1,183	928	1,006	1,300	1,112	861
	物理・材料理工学科	数理・物理コース	1,500	1,159	914	981	1,300	—	—
		マテリアルコース	1,500	1,176	824	951	1,300	1,084	936
	システム創成工学科	電気電子通信コース	1,700	1,363	953	1,100	1,300	1,107	870
		知能・メディア情報コース	1,700	1,377	1,051	1,182	1,300	1,053	859
		機械科学コース	1,500	1,152	921	994	1,300	1,098	859
		社会基盤・環境コース	1,500	1,074	899	981	1,300	1,054	870
農学部	植物生命科学科	1,200	938	789	834	1,200	—	—	—
	応用生物化学科	1,200	948	817	849	1,200	890	792	833
	森林科学科	1,200	993	754	818	1,200	—	—	—
	食料生産環境学科	農村地域デザイン学コース 食産業システム学コース	1,200	898	747	798	1,200	—	—
		水産システム学コース	1,200	841	753	798	1,200	—	—
	動物科学科	1,200	962	835	874	1,200	—	—	—
	共同獣医学科	1,300	1,121	1,027	1,059	1,100	857	816	830

注1) 最高点・最低点・平均点は第1志望の合格者についてのみ表しています。

注2) 「-」は第1志望の合格者が5名以下のため開示しません。

(2) 受験者に対する試験成績等の開示

本学では、受験者本人（合格・不合格の選考結果を問わず、全受験者を対象とします。）

の申請により、平成31年度入学者選抜試験に関わる試験成績及び調査書を開示します。

なお、詳細については、それぞれの募集要項で確認してください。

7 学生募集要項の公表

試験の実施期日、出願手続、出願書類等を含む「学生募集要項」の公表予定は次のとおりです。

- (1) 人文社会科学部アドミッション・オフィス入試（AO入試）学生募集要項 ……公表済み
- (2) 理工学部アドミッション・オフィス入試（AO入試）学生募集要項 ……公表済み
- (3) 推薦入試学生募集要項 ………………平成30年9月上旬
- (4) 私費外国人留学生入試学生募集要項 ………………平成30年11月上旬
- (5) 一般入試学生募集要項 ………………平成30年11月下旬

8 学生募集要項等の請求方法及び請求先

本学で発行する要項及び大学案内等は無料です。（送料のみ負担願います。）

請求できる資料、必要な料金、お支払い方法等は請求方法によって異なりますので、ご注意ください。

なお、岩手大学学務部入試課で、直接配付もしております。ただし、土日祝日及び全学休業日（8/13～8/15、12/28～1/3）は除きます。

- (1) インターネットで請求する場合

パソコン又は携帯電話で**①**テレメール又はモバっちょにアクセスしてください。

ア) テレメール	http://telemail.jp	携帯電話でバーコードを読み取り、アクセスした場合は資料請求番号の入力は不要です。 
イ) モバっちょ	http://djc-mb.jp/iwate-u/	

- (2) 自動音声応答電話で請求する場合

I P 電話 050-8601-0101（24時間受付）に電話をし、希望する資料請求番号（6桁）をプッシュしてください。あとはガイダンスに従って登録してください。

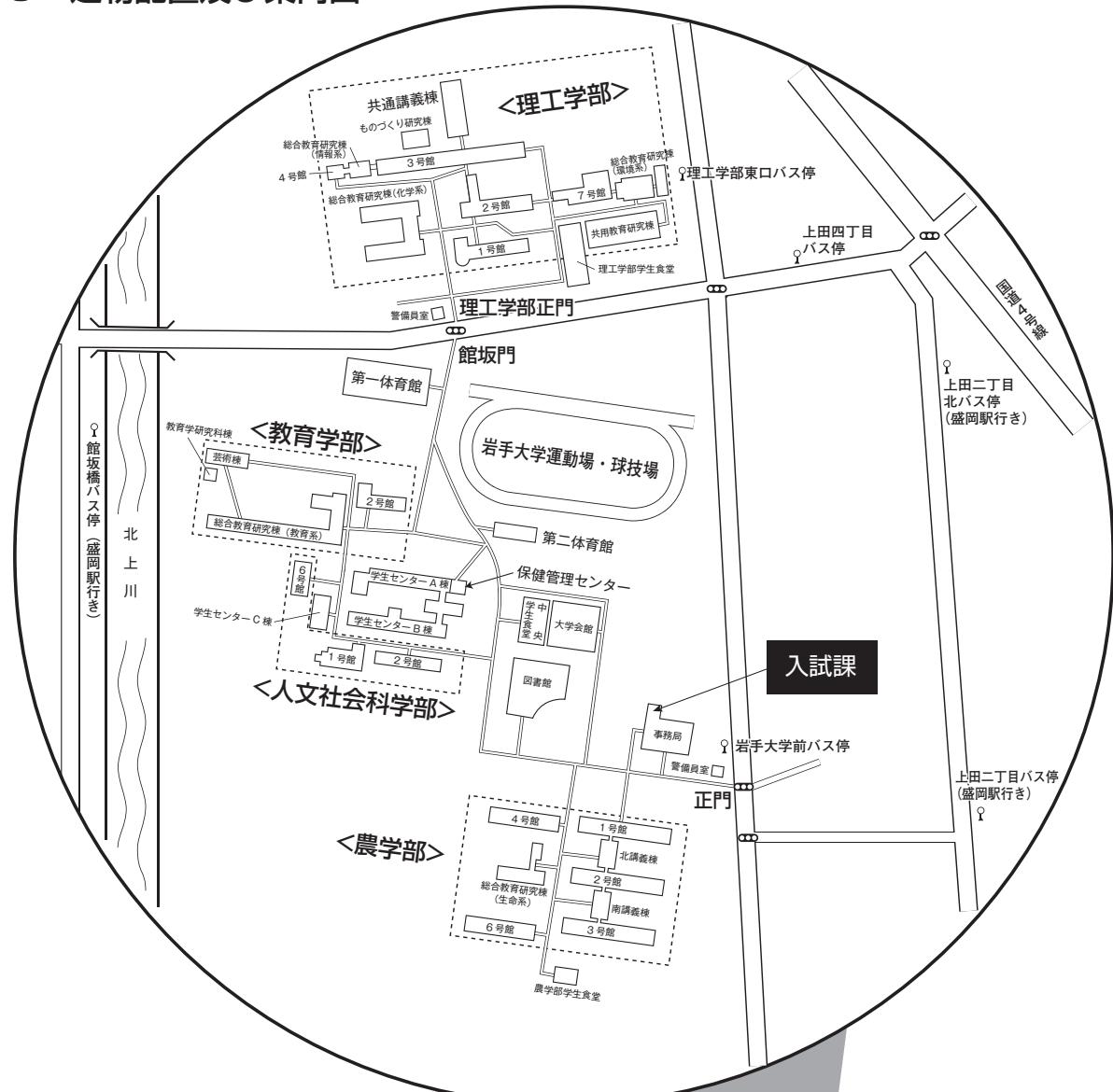
住所、名前の登録時は、ゆっくりはっきりとお話しください。登録された音声が不明瞭な場合は、到着まで時間がかかる場合があります。

* I P 電話への通話料金は、一般電話回線からは日本全国どこからでも 3 分毎に約12円です。

資料名	資料請求番号
大学案内	560682
入学者選抜要項	580682
入学者選抜要項及び大学案内	560652
一般入試学生募集要項	580652
一般入試学生募集要項及び大学案内	540652
推薦入試学生募集要項	580662
人文社会科学部アドミッション・オフィス入試(AO入試)学生募集要項	600062
理工学部アドミッション・オフィス入試(AO入試)学生募集要項	600072
私費外国人留学生入試学生募集要項	561142

(1) ア), (2) の請求方法についてのお問い合わせ テレメールカスタマーセンター ☎ 050-8601-0102 (9:30~18:00)
(1) イ) の請求方法についてのお問い合わせ モバっちょカスタマーセンター ☎ 050-3540-5005 (平日10:00~18:00)

9 建物配置及び案内図



学 部	盛岡駅前(バスターミナル11番のりば)からの交通機関
人文社会科学部 教育学部 農学部	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県交通バスの駅上田線の松園バスターミナル行き「岩手大学前」下車 岩手県交通バスの駅桜台団地線の桜台団地行き「岩手大学前」下車
理 工 学 部	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県交通バスの駅上田線の松園バスターミナル行き「上田四丁目」下車 岩手県交通バスの駅桜台団地線の桜台団地行き「理工学部東口」下車

* 本町・山岸・洞清水経由のバスには乗車しないでください。

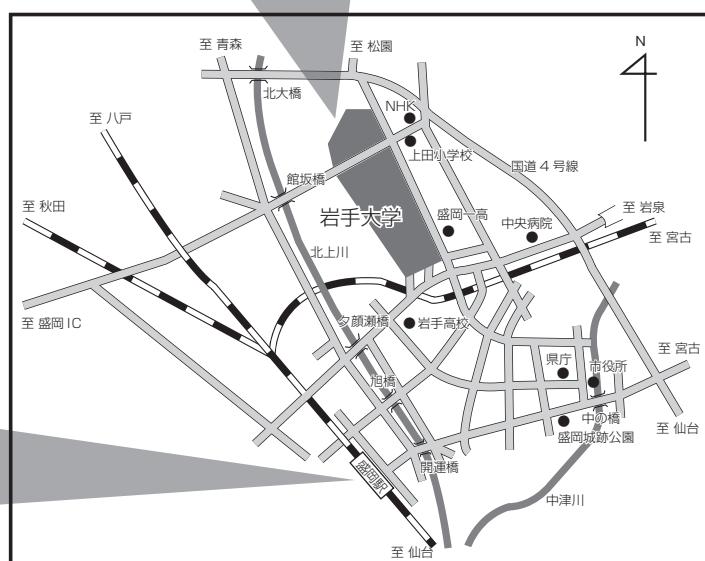
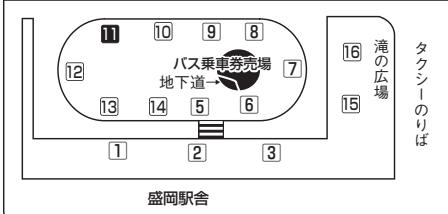
注1) 盛岡駅から約2km 徒歩約25分です。

注2) タクシー利用の場合

盛岡駅「タクシーのりば」から約10分で、料金は1,000円程度です。

注3) 盛岡駅行き(帰り)のバス停については、上記の案内図を参照してください。

盛岡駅東口バスのりば案内図



岩手大学への各種問い合わせについては下記により行ってください。

問い合わせ時間等 月曜日から金曜日 9時00分から17時00分まで
※ただし、祝日、全学休業日（8/13～8/15、12/28
～1/3）は除きます。

★入学試験に関すること

入学試験等に関する問い合わせは、志願者本人が行ってください。

岩手大学学務部入試課 ☎ 019-621-6064

★奨学金（日本学生支援機構等）に関すること

岩手大学学務部学生支援課 ☎ 019-621-6062

★入学科徴収猶予及び入学科・授業料免除に関すること

岩手大学学務部学生支援課 ☎ 019-621-6506
☎ 019-621-6882

★学生寮に関すること

岩手大学学務部学生支援課 ☎ 019-621-6060

★入学科及び授業料納入に関すること

岩手大学財務部経理課 ☎ 019-621-6031

岩手大学ホームページアドレス <https://www.iwate-u.ac.jp/>